

## 第2回健康あだち21専門部会報告資料

平成29年2月9日

件名	ジェネリック医薬品の平成27年度使用率について
所管部課	区民部国民健康保険課 ジェネリック・保健事業推進担当課
内容	<p>厚生労働省は、平成25年度から全国市町村別のジェネリック医薬品使用状況を公表している。本年9月13日に平成27年度分が公表され、目標としていた使用率（29年度末までに62%）を達成した。</p> <p>1 ジェネリック医薬品使用率 63.6%（平成28年3月） 前年同月（59.8%）に比べ、3.8ポイント上昇した。 使用率は新指標で、厚生労働省が電算処理分のレセプトを集計し、算出したもの。国民健康保険以外の公的医療保険等によるジェネリック医薬品使用率も含まれる。</p> <p>2 結果概要 ・足立区は、平成25、26年度に引き続き3年連続して23区中第1位の使用率を維持している。 ・年間各月においても、23区中第1位を維持している。 ・23区全てが、差額通知等のジェネリック医薬品の使用促進に向けた取り組みを始めたことで、総体的に使用率が向上するとともに、区間の差が縮小傾向にある。</p> <p>3 足立区国民健康保険における使用率と削減効果額 （平成27年度） 57.8%（平成28年3月） 約14億8,500万円（推計） 東京都国民健康保険団体連合会から提供された「保険者別利用実態」を基に推計。 区（国保保険者）は約10億4,000万円（7割負担） 区民（国保被保険者）は約4億4,500万円（3割負担）の負担減と推計。</p>

## 第2回健康あだち21専門部会報告資料

平成29年2月9日

件名	平成28年度「ピンクリボンあだち」について
所管部課	衛生部衛生管理課
内容	<p>10月のピンクリボン運動月間は、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を勧めることを目的としている。</p> <p>区では、乳がん体験者の会「たんぼぼの会」と協働で「ピンクリボンあだち」を実施した。</p> <p>また、この活動の周知も兼ねて、がん啓発に関する協定を締結しているアフラックの協力を得て、「がん」を知る展を実施した。</p> <p>1 「がん」を知る展  (1) 期間：10月3日(月)～5日(水)  (2) 会場：庁舎1階アトリウム  (3) 展示内容：がん検診説明映像、乳がん触診モデル、肺模型、がん啓発パネル等</p> <p>2 ピンクリボンあだち  (1) 実施日：10月20日(木)  (2) 実施内容：  ミニウォーク  ・ 時間：午後1時～午後1時40分  ・ 集合場所：北千住マルイ1階交番横(西口)  ・ コース：北千住マルイ前 東京芸術センター  ・ 参加者数：75名  講演会  ・ 時間：午後2時～午後4時  ・ 会場：天空劇場(東京芸術センター21階)  ・ テーマ：「もし乳がんになったらとき  - あなたは選択できますか？」  ・ 講師：国立がん研究センター中央病院  乳腺・腫瘍外科 外来医長 清水 千佳子 氏  ・ 参加者数：150名  一般参加者の100名に自己触診用グラブを配付  マンモグラフィ検診車体験  ・ 時間：午前10時～午後4時</p>

- ・ 会 場：東京芸術センター前広場（千住一丁目広場）
- ・ 内 容：マンモグラフィ検診車疑似体験、乳がん触診モデル体験、パンフレットの配付等
- ・ 参加者数：50名

### 3 周知方法

- (1) 9月25日号広報、足立区ホームページ、A - メール
- (2) 北千住駅周辺災害用電子看板(ビュー坊TV)を利用した周知
- (3) チラシ配布  
駅、住区センター、男女参画プラザ、図書館、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター、区内の大学・高等学校、足立区乳がん検診指定医療機関、足立成和信用金庫各店舗、千住地域町会・自治会等
- (4) ポスター掲示  
駅、住区センター、地域学習センター、男女参画プラザ、図書館、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター、区内の大学・高等学校、足立区乳がん検診指定医療機関、足立成和信用金庫各店舗等
- (5) 横断幕「乳がん検診を受けましょう」の掲出  
庁舎アトリウム、竹の塚エミエルタワー
- (6) 職員向け職場研修として通知

## 第 2 回健康あだち 2 1 専門部会報告資料

平成 2 9 年 2 月 9 日

件 名	足立区糖尿病対策アクションプラン 健康応援部会における職員向けの取り組みについて
所管部課	総務部人事課
内 容	<p>1 実施事業</p> <p>(1) 糖尿病予防の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通OAシステムに開設した「糖尿病対策」掲示板に記事を掲載。</li> <li>・ 定期健診結果で、要精密者と判定された 135 名に糖負荷試験とインスリン分泌量の測定を実施した。(インスリン測定は昨年度より実施している)</li> </ul> <p>(2) 職員の個別指導</p> <p>定期健診結果において、糖尿病についての指導が必要となった職員への個別指導を行い、重症化を予防する。</p> <p>平成 2 8 年度定期健診結果より</p> <p>要精密者 41 名(平成 2 7 年度 5 9 名)・・・実施済み</p> <p>要受診者 1 2 名(平成 2 7 年度 9 名)・・・1 2 ~ 2 月実施 (HbA1c7.0 以上、主治医なし、未治療者)</p> <p>2 実施予定事業</p> <p>(1) 糖尿病予防の情報提供</p> <p>今後も引き続き、掲示板に記事を掲載。</p> <p>(2) 「糖尿病」の理解及び予防法の習得を目的とした講演会の開催。</p> <p>平成 2 8 年 1 1 月 3 0 日(水) 参加 4 0 名</p> <p>平成 2 8 年 1 2 月 2 1 日(水) 参加 3 6 名</p>

地域保健福祉推進協議会

## 第 2 回健康あだち 2 1 専門部会報告資料

平成 2 9 年 2 月 9 日

件 名	足立区糖尿病対策アクションプラン 11月の糖尿病予防月間の取り組み結果について												
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課												
内 容	<p>毎年11月14日は「世界糖尿病デー」であり、その日を含む14日～20日は全国糖尿病週間として、日本各地で様々な糖尿病予防啓発活動が行われた。これに併せ、足立区は11月を糖尿病予防月間として以下のイベント等を実施した。</p> <p>1 あだちベジタベライフ協力店における取り組み  (1)「そうだ、あだちベジタベライフ協力店へ行って、ヘルシーメニューを食べよう！」  日程 11/14(月)～18(金)  内容 1食500kcal 台で、野菜120g以上、<u>塩分3g未満</u>のヘルシーメニューを提供  実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>販売数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・シーフードレストランメヒコ(区役所14階)</td> <td rowspan="8">合計 658 食</td> </tr> <tr> <td>・区役所地下食堂</td> </tr> <tr> <td>・イタリアン・トマト カフェジュニア 東京電機大学店</td> </tr> <tr> <td>・和食屋 赤兵衛 綾瀬西口店</td> </tr> <tr> <td>・Whole Food Café Soja</td> </tr> <tr> <td>・via salice</td> </tr> <tr> <td>・カフェ コペ</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)「野菜からかむカムランチ」、ベジ噛むカード配布  日程 11/18(金)  場所 区役所地下食堂  実績 118食完売、カード配布200人</p>		場所	販売数	・シーフードレストランメヒコ(区役所14階)	合計 658 食	・区役所地下食堂	・イタリアン・トマト カフェジュニア 東京電機大学店	・和食屋 赤兵衛 綾瀬西口店	・Whole Food Café Soja	・via salice	・カフェ コペ	
場所	販売数												
・シーフードレストランメヒコ(区役所14階)	合計 658 食												
・区役所地下食堂													
・イタリアン・トマト カフェジュニア 東京電機大学店													
・和食屋 赤兵衛 綾瀬西口店													
・Whole Food Café Soja													
・via salice													
・カフェ コペ													

2 区役所 1階アトリウムでの糖尿病週間イベント

日時	内容	参加者数
11/14(月) 10時～15時	「糖尿病予防は“野菜”におまかせ」 体験コーナー「野菜足りてる？選んではかって何グラム？」、「やさい100グラムレシピ」の紹介・配布	80人
	「あなたのHbA1cいくつですか？」 59歳以下の区民で糖尿病治療を受けていない方を対象とした指先によるHbA1c測定	50人
11/14(月) ～16日(水) 10時～15時	「あなたの筋肉量、体脂肪量測ってみませんか？」 体組成測定	136人

3 東京電機大学との連携

日程 11月18日(金)

場所 東京電機大学学生食堂及び2号館1階

実績

内容	参加者数
“野菜からかむカム”で早食い防止キャンペーン(学生食堂) 野菜たっぷり(200g以上)の噛みごたえのあるランチを提供	118食完売 (ベジ噛むカード配布400人)
健康フェスタ(2号館1階) 「カラダ測定コーナー」の実施 簡易HbA1c測定、体組成測定、 かむカムチェック、デンタルフロス体験等	HbA1c測定 88人 体組成測定 170人 かむカムチェック 136人 デンタルフロス体験 94人

#### 4 保健センターにおける主な取り組み

日時	内容	参加者数
竹の塚 11/16(水)、12/1(木) 中央本町 11/29(火)、12/13(火)	赤ちゃんが教えてくれた糖尿病予備群の方へ (2日制)	延29人
中央本町 11/29(火)14時~16時	ベジタベ応援! 野菜を減塩でおいしく 食べる調理術	54人

#### 5 広報・周知

- (1) あだち広報(10/10号)、ホームページ掲載
- (2) チラシ配布(5,000部作成)  
区民事務所、保健センター等で配布
- (3) ポスター掲示(600部作成)  
住区センター、図書館、医療機関、薬局等で掲示

地域保健福祉推進協議会

## 第2回健康あだち21専門部会報告資料

平成29年2月9日

件名	足立区糖尿病対策アクションプラン 平成28年度「あだちっ子・いい歯推進園表彰事業」の実施について																			
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課																			
内容	<p>「足立区糖尿病アクションプラン・歯科口腔保健対策編」の取り組みの一環として、「あだちっ子歯科健診(4~6歳)」や「規則正しい食習慣・歯みがき習慣づくり」等に積極的に取り組んでいる幼稚園および保育園(所)を募集・表彰するとともに、優れた取り組みを表彰・広く紹介する「あだちっ子・いい歯推進園表彰事業」を実施した。</p> <p>1 応募園数 <u>26園</u> 私立幼稚園(4) 区立認定こども園(2) 認可保育所(19) 認証保育所(1)</p> <p>2 審査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>園名</th> <th>主な評価ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区長賞</td> <td>六町あづま保育園</td> <td>・0,1歳児の“歯科指導連絡票”を活用した取り組みや「年長児・6歳臼歯健康教室」に保護者が全員参加する等、保護者の関心を高めるため、園ぐるみで進めている</td> </tr> <tr> <td>教育長賞</td> <td>いりや第一保育園</td> <td>・歯みがき指導ガイドライン、歯みがきソング等、統一した指導のため、独自に作成・活用している</td> </tr> <tr> <td>足立区歯科医師会長賞</td> <td>加賀保育園</td> <td>・手作りメダルや賞状、歯みがきカレンダーなど、子どもたちのがんばりを引き出す工夫をしている</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">特別賞 (地域連携奨励賞)</td> <td>いりや第一保育園</td> <td rowspan="4">舎人地域の保育園、小学校による連携した取り組み</td> </tr> <tr> <td>いりや第二保育園</td> </tr> <tr> <td>加賀保育園(看護師連携)</td> </tr> <tr> <td>舎人第一小学校</td> </tr> </tbody> </table> <p>【優秀賞】7園、【奨励賞】16園</p> <p>3 表彰式 平成28年11月12日(土) 歯のポスターコンクール表彰式と同日</p> <p>4 表彰園の紹介 区公式ホームページ、取り組み紹介リーフレットの配布(全保育施設・幼稚園・こども園・小学校)、パネル展示等で紹介した。(別添資料参照)</p> <p>5 実施主体 足立区・足立区教育委員会・公益社団法人東京都足立区歯科医師会</p>		賞	園名	主な評価ポイント	区長賞	六町あづま保育園	・0,1歳児の“歯科指導連絡票”を活用した取り組みや「年長児・6歳臼歯健康教室」に保護者が全員参加する等、保護者の関心を高めるため、園ぐるみで進めている	教育長賞	いりや第一保育園	・歯みがき指導ガイドライン、歯みがきソング等、統一した指導のため、独自に作成・活用している	足立区歯科医師会長賞	加賀保育園	・手作りメダルや賞状、歯みがきカレンダーなど、子どもたちのがんばりを引き出す工夫をしている	特別賞 (地域連携奨励賞)	いりや第一保育園	舎人地域の保育園、小学校による連携した取り組み	いりや第二保育園	加賀保育園(看護師連携)	舎人第一小学校
賞	園名	主な評価ポイント																		
区長賞	六町あづま保育園	・0,1歳児の“歯科指導連絡票”を活用した取り組みや「年長児・6歳臼歯健康教室」に保護者が全員参加する等、保護者の関心を高めるため、園ぐるみで進めている																		
教育長賞	いりや第一保育園	・歯みがき指導ガイドライン、歯みがきソング等、統一した指導のため、独自に作成・活用している																		
足立区歯科医師会長賞	加賀保育園	・手作りメダルや賞状、歯みがきカレンダーなど、子どもたちのがんばりを引き出す工夫をしている																		
特別賞 (地域連携奨励賞)	いりや第一保育園	舎人地域の保育園、小学校による連携した取り組み																		
	いりや第二保育園																			
	加賀保育園(看護師連携)																			
	舎人第一小学校																			

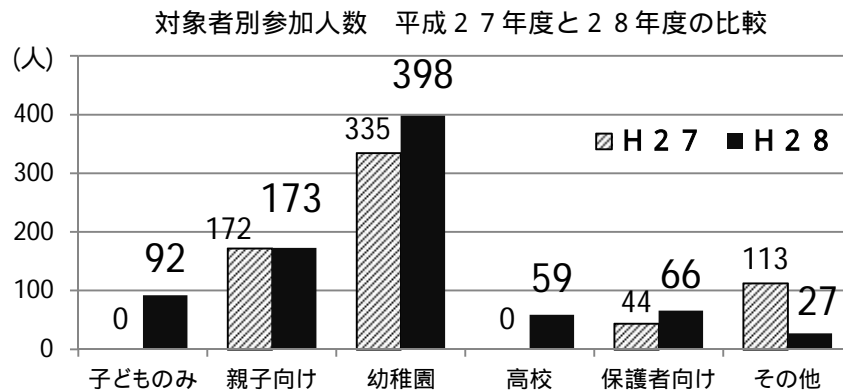


地域保健福祉推進協議会

## 第 2 回健康あだち 2 1 専門部会報告資料

平成 2 9 年 2 月 9 日

件 名	足立区糖尿病対策アクションプラン 平成 2 8 年度食育月間の取り組み結果について	
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課	
内 容	今年度の食育月間は「野菜 LOVE は、家族 LOVE。ちょい増し野菜 ~ 朝も忘れずにね! ~」と銘打ち、野菜摂取量が少ない若い世代や子どもとその保護者に重点をおいて、特に朝食で簡単・手軽に野菜を食べる実践方法を啓発した。	
	1 あだちベジタベライフ協力店の特別サービス	
	内 容	実 績
	ちょっとお得に 50 円引き (事業協力: 東京大学近藤尚己研究室)	26 店舗 1,639 食
	ベジタベモーニングメニューの提供・ 朝ベジセット販売	12 店舗 976 食
	野菜 100 グラムレシピ小鉢の提供	1 店舗 330 食
	合 計	延 39 店舗 2,945 食
	2 主な料理体験教室・講演会	
	内 容	参加者
	学んで食べよう! ベジタベ教室 【北足立市場協会協力】	42 人
高校生対象 出張朝ごはん教室 (4 校) 【保健センター】	59 人	
家族でつくろう 野菜たっぷりカラフルサンド 【ギャラクシティ】	46 人	
合計 25 教室、参加者 815 人 (昨年度 19 教室、664 人)		



### 3 その他の事業等

- (1) おいしい給食「野菜の日」及び「もりもり給食ウィーク」の実施、給食たよりの配布（小中学校）
- (2) 小松菜の栽培・調理体験（区立保育園）  
調理体験 33 園、約 1,800 人
- (3) 飲食店への食育啓発卓上ポップ等設置  
区内 7 事業者（セブン&アイ・フードシステムズ（デニーズ）吉野家、すかいらーく（ガスト・ジョナサンほか）、ビッグボーイジャパン、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、マルイ）、その他ベジタベライフ協力店等 合計 約 800 店舗
- (4) Aメール、クックパッドでの簡単朝ベジレシピの紹介  
Aメール配信、クックパッドへの掲載ともに、週 3 回（合計 13 回）実施
- (5) パネル展示  
本庁舎 6/1(水)～10(金)、ギャラクシティ 6/11(土)～30(木)

### 4 食育月間に実施したアンケートの主な集計結果

- (1) 「ちょっとお得に 50 円引き」事業の概要  
東京大学 近藤尚己研究室の協力を得て、普段野菜を食べる機会が少ない区民の野菜摂取量を増やすため、26 店舗のあだちベジタベライフ協力店で、野菜たっぷりメニューやベジ・ファーストメニュー（以下、野菜メニュー）を 50 円引きで提供した。  
各店約 2 週間実施し、前半の 1 週間は事前告知をせずに 50 円引き（以下、キャンペーンなし期間）、後半の 1 週間は事前告知をした上で 50 円引き（以下、キャンペーンあり期間）を行った。

(2) アンケート回答者数等

今年度の食育月間は、50円引き事業を実施した結果、昨年度に比べ、野菜メニューを食べた方のアンケート回答者数が大幅に増加した。

野菜メニュー提供数	2,615食
野菜メニューアンケート回答者数	1,447人 (27年度 629人)
回答率	55.3%

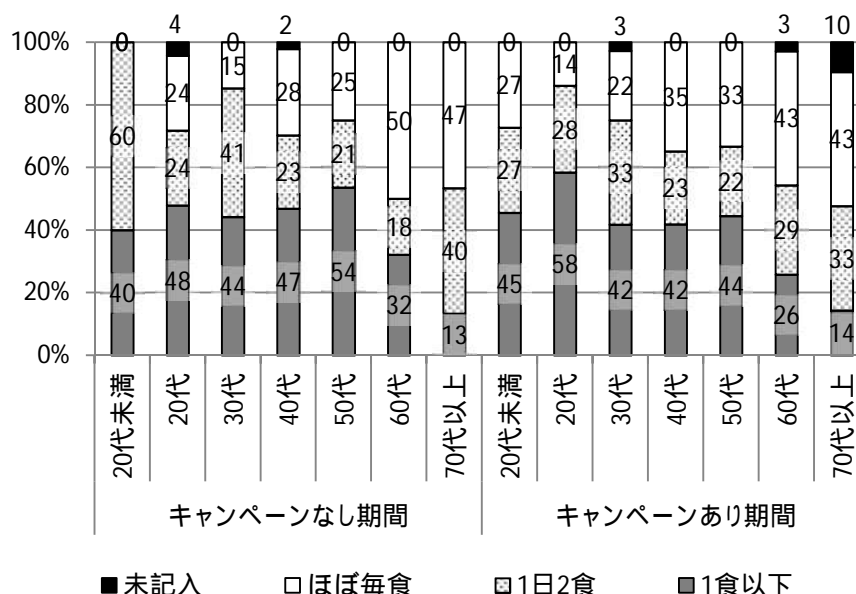
野菜メニュー提供数及びアンケート回答者数は、50円引き事業及びベジタベモーニングメニュー利用者

(3) 野菜の摂取頻度

アンケート回答者のうち、野菜を食べることが「1日1食以下」と答えた20代男性の割合は、「キャンペーンなし期間」では48%に対し、「キャンペーンあり期間」では58%に増加した。

野菜をどのくらい食べますか

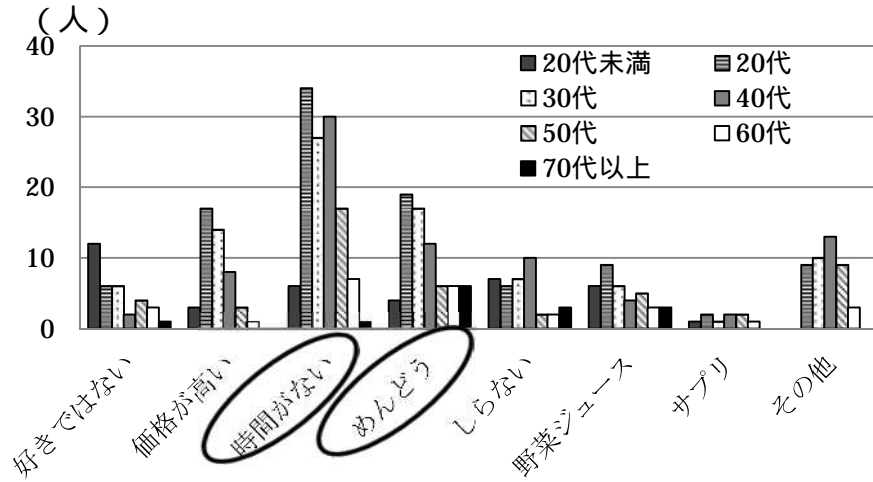
(50円引き事業アンケート男性回答者)



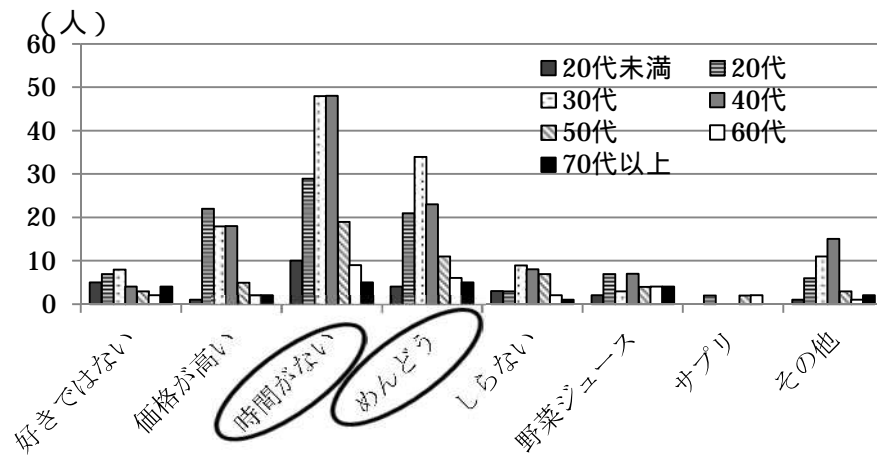
(4) 野菜を食べない理由

野菜を食べる頻度が「1日1食以下」「1日2食」と答えた方に対し、食べない理由を尋ねたところ、男女とも「料理をする時間がない」「料理をするのがめんどろ」という理由が最も多かった。

### 野菜を食べない理由（男性）



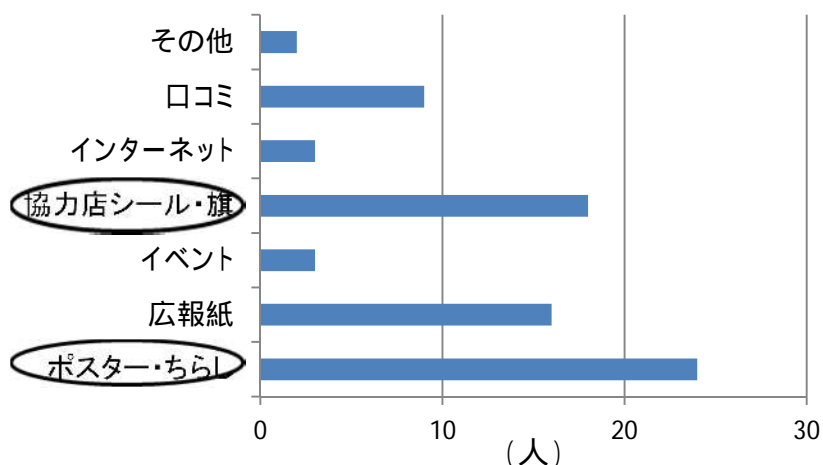
### 野菜を食べない理由（女性）



### (5)「あだちベジタベライフ」の取組みを知ったきっかけ

「あだちベジタベライフ」の取組みを知っていたと回答した人に、知ったきっかけを尋ねたところ、「キャンペーンあり期間」の男性では、「区のポスター・ちらし」「ベジタベライフ協力店の旗・シール」と回答した割合が高かった。

「あだちベジタベライフ」の取組みを知ったきっかけは？（男性）



5 東京大学 近藤尚己研究室による 50 円引き事業の結果報告

(資料 6 - 1)

(1) 東京大学における調査目的

野菜メニューを割引することで、割引したメニューの利用者が増えるか、割引したメニュー利用者の背景要因が普段の利用者と比べてどう異なるか、の2点を明らかにすることを目的に調査を実施した。

(2) 「キャンペーンなし期間」と「キャンペーンあり期間」の比較

○「キャンペーンあり期間」に、注文数、売上が増加

- ・野菜メニュー注文数が約 30% 増加した。
- ・来店者数に対する野菜メニュー注文者の割合が 27% 増加した。
- ・50 円引きコストを差し引いた総売上金額が、1 店舗当たり平均約 2 万円増加した。

○「キャンペーンあり期間」では、普段はランチに外食をあまりしない人や、外食にあまりお金をかけない人の野菜メニュー注文割合が増加

- ・普段の昼食が「手作り料理・弁当」と回答した割合をみると、キャンペーンなし期間での 41% に対し、キャンペーンあり期間では 47% に増加した。
- ・外食での一回あたりの平均昼食代が 850 円以下と答えた人の割合は、キャンペーンあり期間に約 4% 増加した。

(3) 調査のまとめ

50円引きキャンペーンを実施することにより、野菜メニューを注文する人が増え、結果、区民が野菜を食べる機会の増加につながった。50円引きのコストを考慮しても、店舗の総売上金額が増加していた。

また、野菜メニューを50円引きすることにより、普段は外食にあまりお金をかけない、外食をあまりしない人が野菜メニューを注文する傾向がみられた。

6 今後の方針

今後も、食育月間のキャンペーンや「あだちベジタベライフ」の啓発を継続し、野菜摂取の少ない若い男性や料理をする時間がない区民でも野菜摂取がしやすい環境を整え、野菜摂取の習慣づくりを推進する。また、来年度の食育月間についても、東京大学との協働による事業実施について検討していく。



平成 28 年度足立区食育月間  
「ちょっとお得に 50 円引き」事業  
基本集計結果報告書

平成 28 年 9 月

東京大学大学院医学系研究科 健康教育・社会学分野

近藤 尚己（主任・准教授） 長友 亘（大学院修士課程）

## 平成 28 年度足立区食育月間「ちょっとお得に 50 円引き」事業 基本集計結果報告

本事業では、各店の野菜たっぷりメニューやベジ・ファーストメニューの 50 円引きキャンペーンによって、

50 円引き対象としたメニューの利用が増えるか

50 円引き対象メニュー利用者の背景要因は普段の利用者と比べてどう異なるか

以上 2 点を明らかにすることを目的に、対象メニューを注文したお客様へアンケート調査を実施しました。

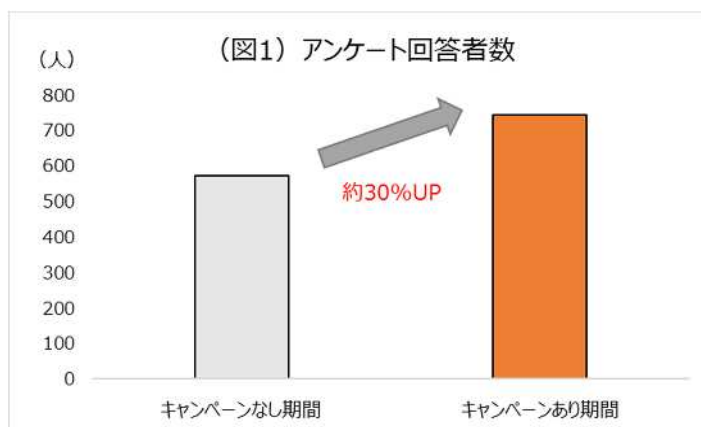
調査の準備ならびに各店とのやりとりにご協力いただき、深く感謝申し上げます。

### 【主な結果】

キャンペーンによって 50 円引き対象メニューの利用が増えるか

#### < キャンペーンを行った期間では、50 円引き対象メニューの利用が約 30% 増加しました >

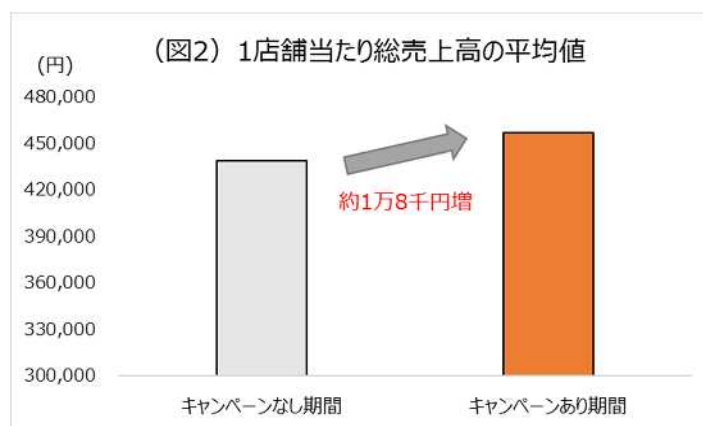
- 臨時休業などを考慮して、両期間に含まれる各店舗の日数を揃えたところ、キャンペーンなし期間では 575 名、キャンペーンあり期間では 740 名の方にご回答いただきました（アンケートは野菜ましメニューを注文した方のみ全員にお願いしました）。
- キャンペーンなし期間に対するキャンペーンあり期間の 50 円引き対象メニュー注文数の比は約 1.3 であり、両期間において 50 円引き対象以外のメニューを含む総注文数は等しかったと仮定すると、約 30% 注文が増えた、と言えます（図 1）。
- 来店者数の情報をご提供いただいた 21 店において、各期間の来店者に対する 50 円引き対象メニュー注文者数の割合を比較すると、キャンペーンあり期間で約 27% の注文増加となっていました。



#### < キャンペーンを行った期間では、50 円引き対象メニューの売上、および総売上が増加しました >

- 総売上の情報をご提供いただいた 15 店において、キャンペーンあり期間での 1 店舗あたりの総売上高の平均値はキャンペーンなし期間に対して 1 万 8 千円増となっていました。（図 2）
- 前述の計算について、キャンペーンあり期間での総売上高には 50 円引き分のコストを除いた額を用いました。したがって、50 円引き分のコストを差し引いても総売上は 1 万 8 千円増えた、と言えます。

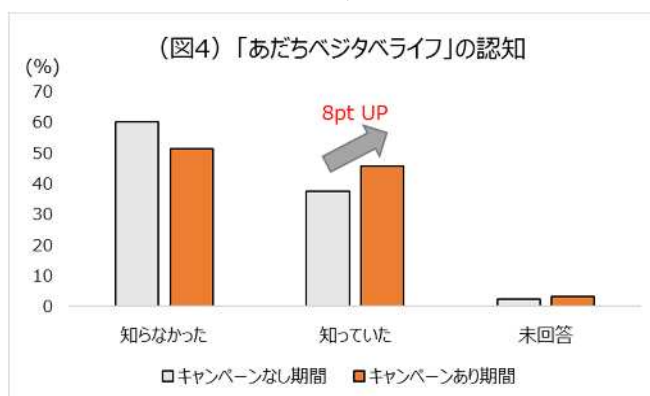
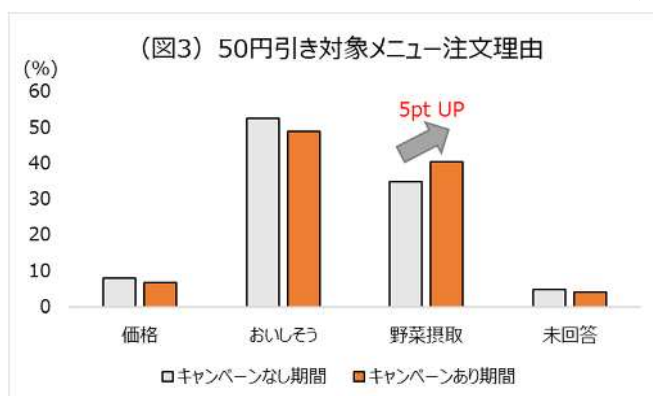




キャンペーンの有無によって50円引き対象メニュー利用者の背景要因はどう異なるか

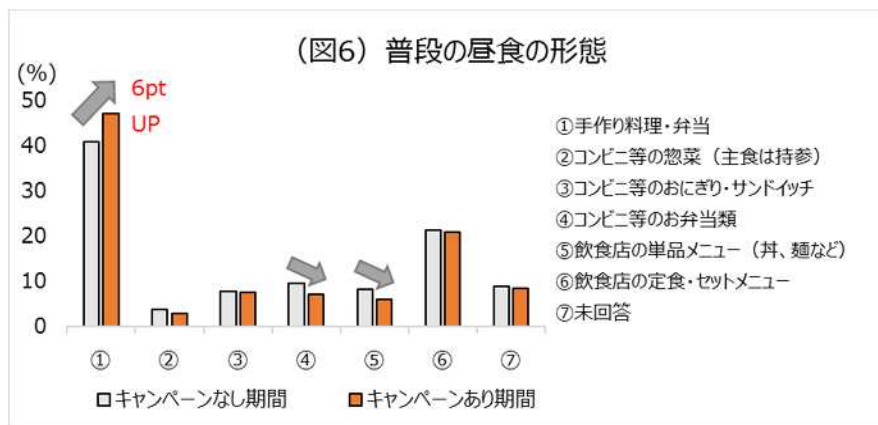
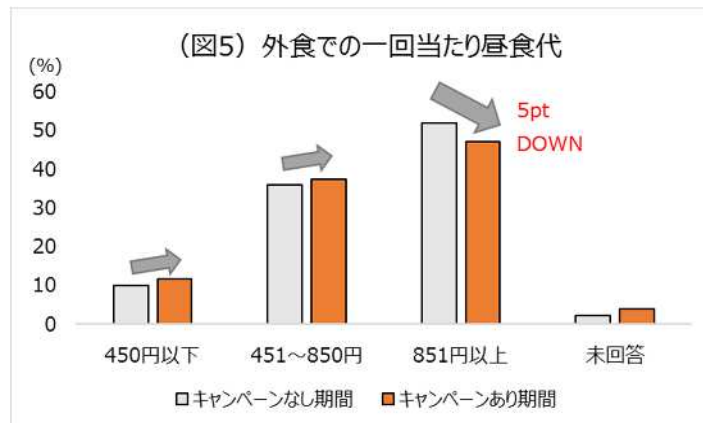
< キャンペーンを行った期間では、野菜への関心が高い人が増えていました >

- 女性の割合は、キャンペーンなし期間で62%だったのに対し、キャンペーンあり期間では70%でした。
- 50円引き対象メニューの注文理由を「野菜がたくさん摂れる」とした人が35%から40%に増えていました(図3)。
- 「あだちベジタベライフ」の取組みについて、キャンペーンなし期間では37%が「知っていた・聞いたことはあった」と答えたのに対し、キャンペーンあり期間では45%でした(図4)。
- 成人の一日に必要な野菜摂取量を知っていた人は、40%から51%に増えていました。



< 普段はあまりランチで外食をしない、ランチにお金をかけない人が増えていました >

- 外食での一回当たりの平均昼食代が850円以上と答えた人の割合は、キャンペーンなし期間では52%だったのに対して、キャンペーンあり期間では47%でした。(図5)
- 普段の昼食の形態について、「手作り料理・弁当」という回答が41%から47%に増えていました。(図6)
- 現在の就業状態では、「臨時雇用・パート・アルバイト」と答えた人がキャンペーンなし期間で13%だったのに対し、キャンペーンあり期間では18%でした。



【このような結果が得られた理由】

今回のキャンペーンでは、期待通り期間中に野菜ましメニューをオーダーする人を30%増やすことができました。キャンペーンによって区民へ野菜を食べる機会をより多く与えたことになり、キャンペーンが成功したものと考えていいと思われます。

どのような人がキャンペーン期間中に野菜ましメニューを頼んだかについては、まず、普段から野菜を摂取することに関心を持ち、ベジタベについても知っている方々の利用を底上げすることができたことが挙げられます。区の広報誌やリーフレットが手に届きやすい、家庭に滞在する時間が長い女性の「せっかくのキャンペーンだから」という動機による来店が増えたのではないのでしょうか。

普段は外食にあまりお金をかけないひとがキャンペーン中に野菜ましメニューを頼んでいたことは興味深い結果です。今回は、外食にかかる普段の金額を、その人の所得水準を代用する情報と想定してアンケートをデザインしました。その点から考えると、本キャンペーンには所得が比較的少ない層を呼び込む効果があった可能性があります。これが本当であれば、野菜摂取における健康格差対策として本キャンペーンに効果があったことになります。一方で、普段は家で昼食を食べるような、家に滞在しがちな人たちを外食に引き込んだ可能性も考えられます。

今後、本事業の効果と50円引き対象メニュー注文者の背景要因について、より詳細な分析を進めていきたいと思っております。

【回答項目毎の集計値】

Q1. 注文した対象メニューの名称を教えてください。

a. 注文のあったメニュー価格の各指標（単位：円）

	対照群	介入群		
平均値	912.7	898.7		
標準偏差	115.4	130.8		
最大値	1450	1450		
最小値	324	324		
中央値	930	900		

b. 注文メニューがサイドメニューかどうかでカテゴリ化

（サイドメニュー = 単品サラダなど）

		対照群	介入群	Total
サイドメニュー以外	N	540	671	1,211
	%	93.91	90.68	92.09
サイドメニュー	N	34	63	97
	%	5.91	8.51	7.38
未回答	N	1	6	7
	%	0.17	0.81	0.53
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

Q2. 今日の日付を記入してください。

a. 回答一覧

日		対照群	介入群	Total	日		対照群	介入群	Total
1	N	3	0	3	20	N	0	25	25
	%	0.52	0	0.23		%	0	3.38	1.9
2	N	25	0	25	21	N	3	20	23
	%	4.35	0	1.9		%	0.52	2.7	1.75
3	N	33	0	33	22	N	0	36	36
	%	5.74	0	2.51		%	0	4.86	2.74
4	N	31	0	31	23	N	2	51	53
	%	5.39	0	2.36		%	0.35	6.89	4.03
5	N	35	0	35	24	N	0	61	61
	%	6.09	0	2.66		%	0	8.24	4.64
6	N	63	0	63	25	N	0	41	41
	%	10.96	0	4.79		%	0	5.54	3.12
7	N	66	0	66	26	N	0	10	10
	%	11.48	0	5.02		%	0	1.35	0.76
8	N	27	5	32	27	N	0	3	3
	%	4.7	0.68	2.43		%	0	0.41	0.23
9	N	36	35	71	28	N	0	8	8
	%	6.26	4.73	5.4		%	0	1.08	0.61
10	N	35	29	64	29	N	0	3	3
	%	6.09	3.92	4.87		%	0	0.41	0.23
11	N	37	42	79	30	N	0	1	1
	%	6.43	5.68	6.01		%	0	0.14	0.08
12	N	26	38	64	未回答	N	32	25	57
	%	4.52	5.14	4.87		%	5.57	3.38	4.33
13	N	22	66	88	Total	N	575	740	1,315
	%	3.83	8.92	6.69		%	100	100	100
14	N	20	63	83	b. 平日か休日かでカテゴリ化				
	%	3.48	8.51	6.31			対照群	介入群	Total
15	N	11	38	49	平日	N	389	525	914
	%	1.91	5.14	3.73		%	67.65	70.95	69.51
16	N	23	42	65	休日	N	154	190	344
	%	4	5.68	4.94		%	26.78	25.68	26.16
17	N	20	39	59	未回答	N	32	25	57
	%	3.48	5.27	4.49		%	5.57	3.38	4.33
18	N	20	40	60	Total	N	575	740	1,315
	%	3.48	5.41	4.56		%	100	100	100
19	N	5	19	24					
	%	0.87	2.57	1.83					

Q3. アンケート記入時現在の時間帯を教えてください。					Q4. 年齢を教えてください。				
		対照群	介入群	Total	a. 値の各指標（単位：歳）				
8-9時台	N	4	4	8		対照群	介入群		
	%	0.7	0.54	0.61	平均値	45.3	47.2		
10-11時台	N	44	74	118	標準偏差	16.5	16.6		
	%	7.65	10	8.97	最大値	96	89		
12-13時台	N	324	426	750	最小値	8	12		
	%	56.35	57.57	57.03	中央値	43	45		
14-15時台	N	68	101	169	b. Q4のカテゴリ化				
	%	11.83	13.65	12.85			対照群	介入群	Total
16-17時台	N	18	17	35	19歳以下	N	13	19	32
	%	3.13	2.3	2.66		%	2.26	2.57	2.43
18-19時台	N	71	77	148	20-29歳	N	92	94	186
	%	12.35	10.41	11.25		%	16	12.7	14.14
20-21時台	N	25	30	55	30-39歳	N	110	134	244
	%	4.35	4.05	4.18		%	19.13	18.11	18.56
22時以降	N	8	7	15	40-49歳	N	130	175	305
	%	1.39	0.95	1.14		%	22.61	23.65	23.19
判別不可	N	1	0	1	50-59歳	N	82	108	190
	%	0.17	0	0.08		%	14.26	14.59	14.45
未回答	N	12	4	16	60-69歳	N	81	100	181
	%	2.09	0.54	1.22		%	14.09	13.51	13.76
Total	N	575	740	1,315	70歳以上	N	47	88	135
	%	100	100	100		%	8.17	11.89	10.27
					判別不可、	N	20	22	42
					未回答	%	3.48	2.97	3.19
					Total	N	575	740	1,315
						%	100	100	100

Q5. 性別を教えてください。					Q6. 足立区にお住まいですか？				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
男性	N	210	215	425	足立区	N	362	475	837
	%	36.52	29.05	32.32		%	62.96	64.19	63.65
女性	N	358	517	875	足立区以外	N	204	250	454
	%	62.26	69.86	66.54		%	35.48	33.78	34.52
判別不可	N	1	4	5	判別不可	N	1	0	1
	%	0.17	0.54	0.38		%	0.17	0	0.08
未回答	N	6	4	10	未回答	N	8	15	23
	%	1.04	0.54	0.76		%	1.39	2.03	1.75
Total	N	575	740	1,315	Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100		%	100	100	100
Q7. このアンケートに答えるのは何回目ですか？					Q8. 今日の来店目的は何ですか？				
		対照群	介入群	Total	q8_r		対照群	介入群	Total
初めて	N	517	636	1,153	食事	N	535	668	1,203
	%	89.91	85.95	87.68		%	93.04	90.27	91.48
2回以上	N	34	60	94	商談	N	2	4	6
	%	5.91	8.11	7.15		%	0.35	0.54	0.46
未回答	N	24	44	68	お茶会	N	5	9	14
	%	4.17	5.95	5.17		%	0.87	1.22	1.06
Total	N	575	740	1,315	宴会・パーティー	N	4	11	15
	%	100	100	100		%	0.7	1.49	1.14
					その他	N	17	27	44
						%	2.96	3.65	3.35
					判別不可	N	6	5	11
						%	1.04	0.68	0.84
					未回答	N	6	16	22
						%	1.04	2.16	1.67
					Total	N	575	740	1,315
						%	100	100	100

Q9. 何名で来店されましたか？				
		対照群	介入群	Total
1人	N	142	156	298
	%	24.7	21.08	22.66
2人	N	255	327	582
	%	44.35	44.19	44.26
3人	N	85	108	193
	%	14.78	14.59	14.68
4人	N	47	73	120
	%	8.17	9.86	9.13
5人以上	N	39	69	108
	%	6.78	9.32	8.21
判別不可	N	1	0	1
	%	0.17	0	0.08
未回答	N	6	7	13
	%	1.04	0.95	0.99
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

Q10. 今日、対象メニューを注文した一番の理由を教えてください。				
		対照群	介入群	Total
価格 (お店の割引等含む)	N	46	50	96
	%	8	6.76	7.3
おいしそう	N	302	362	664
	%	52.52	48.92	50.49
野菜がたくさん摂れる	N	200	298	498
	%	34.78	40.27	37.87
判別不可	N	12	16	28
	%	2.09	2.16	2.13
未回答	N	15	14	29
	%	2.61	1.89	2.21
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

Q11. 最近1か月について伺います。ランチでの外食やお弁当代として、最も利用した価格帯はどれですか？ただし、お弁当を家から持参する場合は除きます。

a. 回答一覧

		対照群	介入群	Total
250円以下	N	30	48	78
	%	5.22	6.49	5.93
251-450円	N	27	39	66
	%	4.7	5.27	5.02
451-650円	N	94	139	233
	%	16.35	18.78	17.72
651-850円	N	112	137	249
	%	19.48	18.51	18.94
851-1050円	N	213	263	476
	%	37.04	35.54	36.2
1051円以上	N	86	85	171
	%	14.96	11.49	13
判別不可	N	1	6	7
	%	0.17	0.81	0.53
未回答	N	12	23	35
	%	2.09	3.11	2.66
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

b. Q11回答の再カテゴリ化

		対照群	介入群	Total
450円以下	N	57	87	144
	%	9.91	11.76	10.95
451~850円	N	206	276	482
	%	35.83	37.3	36.65
851円以上	N	299	348	647
	%	52	47.03	49.2
未回答	N	13	29	42
	%	2.26	3.92	3.19
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

q12. 外食の際、野菜の多いメニューをどのくらいの頻度で注文しますか？（野菜の多い定食や単品メニューのほか、単品・サイドメニューのサラダなども含みます）

a. 回答一覧

		対照群	介入群	Total
いつもしている	N	222	285	507
	%	38.61	38.51	38.56
時々している	N	277	362	639
	%	48.17	48.92	48.59
あまりしない	N	61	79	140
	%	10.61	10.68	10.65
全くしない	N	9	3	12
	%	1.57	0.41	0.91
判別不可	N	1	0	1
	%	0.17	0	0.08
未回答	N	5	11	16
	%	0.87	1.49	1.22
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100

b. Q12回答の再カテゴリ化

		対照群	介入群	Total
いつもしている	N	222	285	507
	%	38.61	38.51	38.56
時々している	N	277	362	639
	%	48.17	48.92	48.59
あまり、または全くしない	N	70	82	152
	%	12.17	11.08	11.56
判別不可、未回答	N	6	11	17
	%	1.04	1.49	1.29
Total	N	575	740	1,315
	%	100	100	100



Q13. 普段の昼食では、どんなものを食べる人が多いですか？					Q14. メニューや食材を選ぶとき、健康についてどの程度意識していますか？				
		対照群	介入群	Total	a. 回答一覧				
						対照群	介入群	Total	
手作り料理・弁当	N	235	348	583	いつもしている	N	185	264	449
	%	40.87	47.03	44.33		%	32.17	35.68	34.14
コンビニ等の惣菜 (主食は持参)	N	21	22	43	時々している	N	274	334	608
	%	3.65	2.97	3.27		%	47.65	45.14	46.24
コンビニ等のおにぎり・ サンドイッチ	N	44	55	99	あまりしていない	N	89	109	198
	%	7.65	7.43	7.53		%	15.48	14.73	15.06
コンビニ等のお弁当類	N	55	53	108	全くしていない	N	17	17	34
	%	9.57	7.16	8.21		%	2.96	2.3	2.59
飲食店の単品メニュー (丼、麺など)	N	47	44	91	判別不可	N	0	1	1
	%	8.17	5.95	6.92		%	0	0.14	0.08
飲食店の定食・ セットメニュー	N	122	155	277	未回答	N	10	15	25
	%	21.22	20.95	21.06		%	1.74	2.03	1.9
判別不可	N	36	50	86	Total	N	575	740	1,315
	%	6.26	6.76	6.54		%	100	100	100
未回答	N	15	13	28	b. Q14回答の再カテゴリ化				
	%	2.61	1.76	2.13		対照群	介入群	Total	
Total	N	575	740	1,315	いつもしている	N	185	264	449
	%	100	100	100	%	32.17	35.68	34.14	
					時々している	N	274	334	608
					%	47.65	45.14	46.24	
					あまり、または	N	106	126	232
					全くしていない	%	18.43	17.03	17.64
					判別不可、	N	10	16	26
					未回答	%	1.74	2.16	1.98
					Total	N	575	740	1,315
					%	100	100	100	

Q15(1). 野菜料理はどのくらい食べますか？ (野菜料理：サラダ・お浸し・野菜の煮物・ 具だくさんみそ汁等。)					Q15(2). (Q15(1)で「ほぼ毎食」以外と答えた場合) 野菜を食べない理由は何ですか？(複数回答可)				
		対照群	介入群	Total	1. 野菜が好きではない				
1日1食以下	N	161	159	320	いいえ	N	235	276	511
	%	28	21.49	24.33		%	74.37	70.95	72.48
1日2食	N	155	230	385	はい	N	32	17	49
	%	26.96	31.08	29.28		%	10.13	4.37	6.95
ほぼ毎食	N	240	334	574	未回答	N	49	96	145
	%	41.74	45.14	43.65		%	15.51	24.68	20.57
判別不可	N	3	0	3	Total	N	316	389	705
	%	0.52	0	0.23		%	100	100	100
未回答	N	16	17	33	2. 野菜は価格が高い				
	%	2.78	2.3	2.51			対照群	介入群	Total
Total	N	575	740	1,315	いいえ	N	218	241	459
	%	100	100	100		%	68.99	61.95	65.11
					はい	N	49	52	101
						%	15.51	13.37	14.33
					未回答	N	49	96	145
						%	15.51	24.68	20.57
					Total	N	316	389	705
						%	100	100	100
					3. 料理をする時間がない				
							対照群	介入群	Total
					いいえ	N	159	158	317
						%	50.32	40.62	44.96
					はい	N	108	135	243
						%	34.18	34.7	34.47
					未回答	N	49	96	145
						%	15.51	24.68	20.57
					Total	N	316	389	705
						%	100	100	100

(次ページに続く)

(Q15(2)続き)									
4. 料理をするのがめんどう					7. サプリメントを飲んでいるから不要				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
いいえ	N	202	211	413	いいえ	N	261	285	546
	%	63.92	54.24	58.58		%	82.59	73.26	77.45
はい	N	65	82	147	はい	N	6	8	14
	%	20.57	21.08	20.85		%	1.9	2.06	1.99
未回答	N	49	96	145	未回答	N	49	96	145
	%	15.51	24.68	20.57		%	15.51	24.68	20.57
Total	N	316	389	705	Total	N	316	389	705
	%	100	100	100		%	100	100	100
5. 野菜の調理方法や簡単な食べ方を知らない					8. その他				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
いいえ	N	247	259	506	いいえ	N	234	256	490
	%	78.16	66.58	71.77		%	74.05	65.81	69.5
はい	N	20	34	54	はい	N	33	37	70
	%	6.33	8.74	7.66		%	10.44	9.51	9.93
未回答	N	49	96	145	未回答	N	49	96	145
	%	15.51	24.68	20.57		%	15.51	24.68	20.57
Total	N	316	389	705	Total	N	316	389	705
	%	100	100	100		%	100	100	100
6. 野菜ジュースを飲んでいるから不要									
		対照群	介入群	Total					
いいえ	N	237	269	506					
	%	75	69.15	71.77					
はい	N	30	24	54					
	%	9.49	6.17	7.66					
未回答	N	49	96	145					
	%	15.51	24.68	20.57					
Total	N	316	389	705					
	%	100	100	100					

Q16(1). 来店前に、「あだちベジタベライフ」の取組みをどの程度知っていましたか？					Q16(2). (Q16(1)で「知らなかった」以外と答えた場合)「あだちベジタベライフ」の取組みを知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)				
a. 回答一覧					1. 区のポスター・チラシ				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
よく知っていた	N	43	103	146	いいえ	N	91	163	254
	%	7.48	13.92	11.1		%	42.33	48.37	46.01
少し知っていた	N	79	133	212	はい	N	89	125	214
	%	13.74	17.97	16.12		%	41.4	37.09	38.77
聞いたことはあった	N	93	101	194	未回答	N	35	49	84
	%	16.17	13.65	14.75		%	16.28	14.54	15.22
知らなかった	N	346	380	726	Total	N	215	337	552
	%	60.17	51.35	55.21		%	100	100	100
判別不可	N	1	5	6	2. 区の広報誌				
	%	0.17	0.68	0.46			対照群	介入群	Total
未回答	N	13	18	31	いいえ	N	116	176	292
	%	2.26	2.43	2.36		%	53.95	52.23	52.9
Total	N	575	740	1,315	はい	N	64	112	176
	%	100	100	100		%	29.77	33.23	31.88
b. Q16(1)回答の再カテゴリ化					未回答	N	35	49	84
		対照群	介入群	Total		%	16.28	14.54	15.22
知らなかった	N	346	380	726	Total	N	215	337	552
	%	60.17	51.35	55.21		%	100	100	100
聞いたことはあった、	N	215	337	552	3. 区のイベント				
知っていた	%	37.39	45.54	41.98			対照群	介入群	Total
未回答	N	14	23	37	いいえ	N	172	258	430
	%	2.43	3.11	2.81		%	80	76.56	77.9
Total	N	575	740	1315	はい	N	8	30	38
	%	100	100	100		%	3.72	8.9	6.88
					未回答	N	35	49	84
						%	16.28	14.54	15.22
					Total	N	215	337	552
						%	100	100	100
					(次ページへ続く)				

(Q16(2)続き)									
4. 活動協力店の旗・シール					7. その他				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
いいえ	N	147	224	371	いいえ	N	167	276	443
	%	68.37	66.47	67.21		%	77.67	81.9	80.25
はい	N	33	64	97	はい	N	13	12	25
	%	15.35	18.99	17.57		%	6.05	3.56	4.53
未回答	N	35	49	84	未回答	N	35	49	84
	%	16.28	14.54	15.22		%	16.28	14.54	15.22
Total	N	215	337	552	Total	N	215	337	552
	%	100	100	100		%	100	100	100
5. インターネット									
		対照群	介入群	Total					
いいえ	N	172	275	447					
	%	80	81.6	80.98	Q16(3). (Q16(1)で「知らなかった」以外と答えた場合)				
はい	N	8	13	21	「あだちベジタベライフ」の取組みを今後も継続すべきだと				
	%	3.72	3.86	3.8	思いますか？				
未回答	N	35	49	84			対照群	介入群	Total
	%	16.28	14.54	15.22	強く思う	N	105	182	287
Total	N	215	337	552		%	48.84	54.01	51.99
	%	100	100	100	やや思う	N	81	110	191
						%	37.67	32.64	34.6
6. 知り合いからの口コミ					あまり思わない	N	5	7	12
		対照群	介入群	Total		%	2.33	2.08	2.17
いいえ	N	160	259	419	全く思わない	N	0	0	0
	%	74.42	76.85	75.91		%	0	0	0
はい	N	20	29	49	わからない	N	15	18	33
	%	9.3	8.61	8.88		%	6.98	5.34	5.98
未回答	N	35	49	84	未回答	N	9	20	29
	%	16.28	14.54	15.22		%	4.19	5.93	5.25
Total	N	215	337	552	Total	N	215	337	552
	%	100	100	100		%	100	100	100

Q17. 成人の1日に必要な野菜摂取量は350g以上と知っていましたか？					Q18. 食事は野菜から食べていますか？				
		対照群	介入群	Total		対照群	介入群	Total	
知っていた	N	229	380	609	はい	N	422	558	980
	%	39.83	51.35	46.31		%	73.39	75.41	74.52
知らなかった	N	329	324	653	いいえ	N	123	136	259
	%	57.22	43.78	49.66		%	21.39	18.38	19.7
未回答	N	17	36	53	判別不可	N	1	0	1
	%	2.96	4.86	4.03		%	0.17	0	0.08
Total	N	575	740	1,315	未回答	N	29	46	75
	%	100	100	100		%	5.04	6.22	5.7
					Total	N	575	740	1,315
						%	100	100	100

Q19. これまでにかかったことのある、または現在治療中の病気はありますか？（複数回答可）									
（以下、「ない」と答えていない人を集計）									
1. ない		対照群	介入群	Total	2. 糖尿病		対照群	介入群	Total
いいえ	N	152	195	347	いいえ	N	130	159	289
	%	26.43	26.35	26.39		%	65.33	60.69	62.69
はい	N	376	478	854	はい	N	22	36	58
	%	65.39	64.59	64.94		%	11.06	13.74	12.58
未回答	N	47	67	114	未回答	N	47	67	114
	%	8.17	9.05	8.67		%	23.62	25.57	24.73
Total	N	575	740	1,315	Total	N	199	262	461
	%	100	100	100		%	100	100	100

3. 腎臓病		対照群	介入群	Total	4. 狭心症・心筋梗塞		対照群	介入群	Total
いいえ	N	145	189	334	いいえ	N	150	187	337
	%	72.86	72.14	72.45		%	75.38	71.37	73.1
はい	N	7	6	13	はい	N	2	8	10
	%	3.52	2.29	2.82		%	1.01	3.05	2.17
未回答	N	47	67	114	未回答	N	47	67	114
	%	23.62	25.57	24.73		%	23.62	25.57	24.73
Total	N	199	262	461	Total	N	199	262	461
	%	100	100	100		%	100	100	100

（次ページへ続く）

(Q19続き)									
5. 脳梗塞・脳出血					8. メタボ (メタボリック症候群)				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
いいえ	N	148	188	336	いいえ	N	120	155	275
	%	74.37	71.76	72.89		%	60.3	59.16	59.65
はい	N	4	7	11	はい	N	32	40	72
	%	2.01	2.67	2.39		%	16.08	15.27	15.62
未回答	N	47	67	114	未回答	N	47	67	114
	%	23.62	25.57	24.73		%	23.62	25.57	24.73
Total	N	199	262	461	Total	N	199	262	461
	%	100	100	100		%	100	100	100
6. 高血圧					9. その他				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
いいえ	N	79	104	183	いいえ	N	133	160	293
	%	39.7	39.69	39.7		%	66.83	61.07	63.56
はい	N	73	91	164	はい	N	19	35	54
	%	36.68	34.73	35.57		%	9.55	13.36	11.71
未回答	N	47	67	114	未回答	N	47	67	114
	%	23.62	25.57	24.73		%	23.62	25.57	24.73
Total	N	199	262	461	Total	N	199	262	461
	%	100	100	100		%	100	100	100
7. 高脂血症									
		対照群	介入群	Total					
いいえ	N	116	160	276					
	%	58.29	61.07	59.87					
はい	N	36	35	71					
	%	18.09	13.36	15.4					
未回答	N	47	67	114					
	%	23.62	25.57	24.73					
Total	N	199	262	461					
	%	100	100	100					

Q20(1). 現在のお仕事は何ですか？（休職中のお仕事も含まます）

a. 回答一覧					b. Q20(1)回答の再カテゴリ化				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
経営者・役員	N	44	53	97	正規	N	251	268	519
	%	7.65	7.16	7.38		%	43.65	36.22	39.47
正規職員・従業員	N	207	215	422	非正規	N	106	176	282
	%	36	29.05	32.09		%	18.43	23.78	21.44
派遣社員	N	12	18	30	自営業その他	N	51	52	103
	%	2.09	2.43	2.28		%	8.87	7.03	7.83
契約社員・嘱託	N	21	27	48	無職その他	N	142	202	344
	%	3.65	3.65	3.65		%	24.7	27.3	26.16
臨時雇用・パート・アルバイト	N	73	131	204	未回答	N	25	42	67
	%	12.7	17.7	15.51		%	4.35	5.68	5.1
自営業主	N	38	37	75	Total	N	575	740	1,315
	%	6.61	5	5.7		%	100	100	100
家族従事者	N	10	13	23					
	%	1.74	1.76	1.75					
内職	N	3	2	5					
	%	0.52	0.27	0.38					
専業主婦・主夫	N	91	131	222					
	%	15.83	17.7	16.88					
学生	N	31	37	68					
	%	5.39	5	5.17					
失業中 (求職活動あり)	N	2	3	5					
	%	0.35	0.41	0.38					
無職 (求職活動なし)	N	18	31	49					
	%	3.13	4.19	3.73					
判別不可	N	2	2	4					
	%	0.35	0.27	0.3					
未回答	N	23	40	63					
	%	4	5.41	4.79					
Total	N	575	740	1,315					
	%	100	100	100					



Q20(2). (Q20(1)で経営者・役員～内職の項目に回答した場合) それはどんなお仕事ですか?									
a. 回答一覧					b. 職業カラーで再カテゴリ化				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
管理職	N	52	43	95	ホワイト	N	348	418	766
	%	12.75	8.67	10.51		%	85.29	84.27	84.73
専門・技術職	N	97	142	239	ブルー	N	40	43	83
	%	23.77	28.63	26.44		%	9.8	8.67	9.18
事務	N	110	130	240	未回答	N	20	35	55
	%	26.96	26.21	26.55		%	4.9	7.06	6.08
販売・サービス	N	85	98	183	Total	N	408	496	904
	%	20.83	19.76	20.24		%	100	100	100
保安関係	N	4	5	9					
	%	0.98	1.01	1	c. 管理職または専門・技術職かどうかで再カテゴリ化				
農業関係	N	2	3	5			対照群	介入群	Total
	%	0.49	0.6	0.55	管理・専門職	N	149	185	334
生産工程	N	9	10	19		%	36.52	37.3	36.95
	%	2.21	2.02	2.1	それ以外	N	239	276	515
輸送・機械操作	N	9	1	10		%	58.58	55.65	56.97
	%	2.21	0.2	1.11	未回答	N	20	35	55
建設・採掘	N	14	17	31		%	4.9	7.06	6.08
	%	3.43	3.43	3.43	Total	N	408	496	904
運搬・清掃等	N	6	12	18		%	100	100	100
	%	1.47	2.42	1.99					
判別不可	N	2	8	10					
	%	0.49	1.61	1.11					
未回答	N	18	27	45					
	%	4.41	5.44	4.98					
Total	N	408	496	904					
	%	100	100	100					

Q21. 最後に卒業した学校について教えてください。									
a. 在学中の人を含む					b. 在学中の人を含まない				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
小・中学校	N	33	31	64	小・中学校	N	26	25	51
	%	5.74	4.19	4.87		%	4.78	3.56	4.09
高校	N	170	218	388	高校	N	165	212	377
	%	29.57	29.46	29.51		%	30.33	30.16	30.23
専門学校	N	78	97	175	専門学校	N	78	96	174
	%	13.57	13.11	13.31		%	14.34	13.66	13.95
短大・高専	N	59	90	149	短大・高専	N	56	90	146
	%	10.26	12.16	11.33		%	10.29	12.8	11.71
大学	N	172	223	395	大学	N	162	203	365
	%	29.91	30.14	30.04		%	29.78	28.88	29.27
大学院	N	18	24	42	大学院	N	14	22	36
	%	3.13	3.24	3.19		%	2.57	3.13	2.89
未回答	N	45	57	102	未回答	N	43	55	98
	%	7.83	7.7	7.76		%	7.9	7.82	7.86
Total	N	575	740	1,315	Total	N	544	703	1,247
	%	100	100	100		%	100	100	100
c. Q21回答の再カテゴリ化（在学中の人を含む）					d. Q21回答の再カテゴリ化（在学中の人を含まない）				
		対照群	介入群	Total			対照群	介入群	Total
高校以下	N	203	249	452	高校以下	N	191	237	428
	%	35.3	33.65	34.37		%	35.11	33.71	34.32
短大・専門	N	137	187	324	短大・専門	N	134	186	320
	%	23.83	25.27	24.64		%	24.63	26.46	25.66
大学以上	N	190	247	437	大学以上	N	176	225	401
	%	33.04	33.38	33.23		%	32.35	32.01	32.16
未回答	N	45	57	102	未回答	N	43	55	98
	%	7.83	7.7	7.76		%	7.9	7.82	7.86
Total	N	575	740	1,315	Total	N	544	703	1,247
	%	100	100	100		%	100	100	100

地域保健福祉推進協議会

## 第2回健康あだち21専門部会報告資料

平成29年2月9日

件名	足立区糖尿病対策アクションプラン 「おいしい給食・食育対策編」(案)について
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課 学校教育部学務課
内容	<p>おいしい給食を通じて、食育推進事業をさらに発展させるため、現在活用中の「足立区食育推進計画(平成23年度～27年度)」と「おいしい給食推進事業」を一本化し、子どもの頃からの望ましい食習慣の定着をめざした新たな計画(素案)を作成したので報告する。(資料7-1)</p> <p>1 計画の基本理念 野菜摂取が当然な地域社会の実現を通して、区民の望ましい食習慣の定着と健康増進を図り、ひいては健康寿命の延伸をめざす。 そのため、凝った料理を覚えるよりも、簡単であってもバランスのとれた食生活を可能とする実践力「あだち食のスタンダード」の定着を、「おいしい給食推進事業」を通して推し進める。</p> <p>2 計画の期間 平成29年度～平成34年度の6年間とする。</p> <p>3 計画の主な内容 子どもに重点を置き、健康に生き抜くための実践力として「あだち食のスタンダード」を中学卒業時まで身に付けることで、食をめぐる課題の解決をめざす。 【あだち食のスタンダード】 1日3食野菜を食べるなど、望ましい食習慣を身に付ける 栄養バランスの良い食事を選択できる 簡単な料理を作ることができる ご飯が炊ける、インスタントに頼らずみそ汁が作れる、 目玉焼き程度のフライパン料理ができる</p> <p>4 今後のスケジュール(予定) ・平成29年1月26日(木)～29年2月24日(金) パブリックコメントの実施 ・平成29年3月 計画完成、印刷・製本 ・平成29年4月 関連部署等配付</p>

# 足立区糖尿病対策アクションプラン 「おいしい給食・食育対策編」

- 「あだち食のスタンダード de 元気」宣言 -

( 素 案 )



足立区 足立区教育委員会  
平成 2 9 年 1 月

## 目 次

概 要	1
足立区糖尿病対策アクションプラン「おいしい給食・食育対策編」	..... 1
第1章 計画の策定にあたって	4
1 計画策定の背景	..... 4
(1) これまでの「足立区食育推進計画」の課題と今後の方針	..... 4
(2) 「おいしい給食推進事業」の課題と今後の方針	..... 4
(3) 「おいしい給食推進事業」を統合した新たな計画「おいしい給食・食育対策編」 の策定	..... 5
2 計画の基本理念	..... 6
3 本計画の位置づけ	..... 7
4 計画の期間	..... 8

# 足立区糖尿病対策アクションプラン「おいしい給食・食育対策編」 概要

## 第1章 計画の策定にあたって

### 1 計画策定の背景

(1) これまでの「足立区食育推進計画」の課題と今後の方針

(2) 「おいしい給食推進事業」の課題と今後の方針

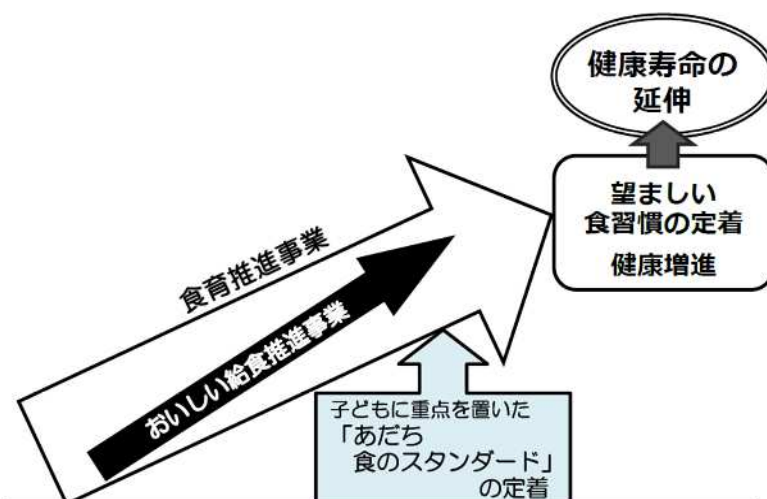
(3) 「おいしい給食推進事業」を統合した新たな計画「おいしい給食・食育対策編」の策定

従来の「足立区食育推進計画」と「おいしい給食推進事業」を一本化することで、次代を担う子どもたちへの施策に重点を置きつつ、全区民をも巻き込む計画として策定する。

### 2 計画の基本理念

野菜摂取が当然な地域社会の実現を通して、区民の望ましい食習慣の定着と健康増進を図り、ひいては健康寿命の延伸をめざす。

そのため、凝った料理を覚えるよりも、簡単であってもバランスのとれた食生活を可能とする実践力＝「あだち食のスタンダード」の定着を、「おいしい給食推進事業」を通して推し進める。



### 3 本計画の位置づけ

### 4 計画の期間

## 第2章 食をめぐる足立区の現状と課題

---

### 課題1 朝食の欠食、野菜摂取量の不足、ベジ・ファーストの未浸透など、望ましい食習慣が定着していない

#### (1) 朝食の欠食が多い

- ・ 中学3年生で、朝食摂取が毎日ではない生徒は約20%
- ・ 18～39歳男性で、朝食を週3日以上食べない人は約34%

#### (2) 野菜摂取量が不足している

- ・ 中学2年生の推定野菜摂取量は206g
- ・ 20～59歳の推定野菜摂取量は233g
- ・ 18～39歳で、朝食に野菜を食べている人は、たった27%

#### (3) ベジ・ファーストが浸透していない

- ・ 小学1年生で、食事を野菜から食べる(ベジ・ファースト)割合は約12%

#### (4) 給食残菜率が高い学校と低い学校の二極化がみられる

- ・ 残菜率が高い学校と低い学校との最大差は、小学校で6.4ポイント、中学校は10.4ポイントで、依然、開いたままの状態

### 課題2 食塩、菓子・甘味飲料の過剰摂取などが、糖尿病をはじめとした生活習慣病につながっている

#### (1) 食塩、菓子・甘味飲料の摂取が多い

- ・ 20～59歳では、推定食塩摂取量が多い傾向
- ・ 20～59歳男性では推定甘味飲料摂取量、20歳代女性は推定菓子類摂取量が多い傾向

#### (2) 偏った食生活が、糖尿病をはじめとした生活習慣病につながっている

- ・ 18～39歳で、一日の中で野菜摂取頻度が低い人、または朝食を食べない人は、生活習慣病のリスク項目が多い傾向
- ・ 小学1年生で、食事を野菜から食べる児童は、過体重の割合が3割低い
- ・ 18～39歳男性で、「肥満」は約30%

### 課題3 料理をしない家庭が増え、食育機能が低下している

- ・ 小1家庭で、子どもへの食事づくりが月に数日・ほとんどない世帯は約10%
- ・ 小1家庭で、子どもと一緒に料理を作ることが「めったにない」世帯は約30%
- ・ 小1家庭で、夕食を、ひとりまたは子どもたちだけで食べる世帯は約4%

## 第3章 食をめぐる課題の解決にむけて

### 1 課題解決のための「あだち食のスタンダード」

子どもに重点を置き、健康に生き抜くための実践力として「あだち食のスタンダード」を中学卒業時まで身に付けることで、食をめぐる課題の解決をめざす。

#### 【あだち食のスタンダード】

(1) 1日3食野菜を食べるなど、望ましい食習慣を身につける

(2) 栄養バランスの良い食事を選択できる

(3) 簡単な料理を作ることができる

ごはんが炊ける、インスタントに頼らずみそ汁が作れる、目玉焼き程度のフライパン料理ができる

### 2 「あだち食のスタンダード」に沿った主な事業

(1) 1日3食野菜を食べるなど、望ましい食習慣を身につける

<食に対する関心や意欲があり、野菜を食べる、野菜から食べる、朝食を毎日食べるなどの健康的な食習慣を身につける>

中学生までの事業

・保育園～中学校まで

「ひと口目は野菜から(ベジ・ファースト)」事業

・給食残菜率における学校間の二極化解消

・野菜への関心を高める「野菜の日」事業

・食欲を高める給食新規メニューの開発

保護者・区民向け事業

・妊娠期～就学前までの父母等向け各栄養教室

・食育サポーターによる食育啓発事業

・あだちベジタベライフ

(2) 栄養バランスの良い食事を選択できる

<野菜を含む栄養バランスの良い組み合わせを選択できる>

中学生までの事業

・毎日の給食を通じた食育の推進

・小・中学校家庭科指導案作成

・中学生対象 惣菜活用塾

保護者・区民向け事業

・あだちベジタベライフ協力店事業

・ハイリスク家庭・ひとり親家庭への食支援

(3) 簡単な料理を作ることができる

<簡単な料理を作り、家族や友人と食事をする機会を増やす>

中学生までの事業

・保育園での「野菜の調理体験」事業

・学童保育室などでの料理教室・おやつ講座

・おいしい給食メニューコンクール

・小・中学校での「〇〇家のシェフになろう！」

保護者・区民向け事業

・高校生向け包丁いらずの朝ベジ料理教室

・簡単野菜レシピ啓発



## 第1章 計画の策定にあたって

### 1 計画策定の背景

#### (1) これまでの「足立区食育推進計画」の課題と今後の方針

国の食育基本法（平成17年7月15日施行）、食育推進基本計画（平成18年3月）及び第2次食育推進基本計画（平成23年3月）を受け、足立区は「足立区食育推進計画（平成19年度～22年度）」及び「足立区食育推進計画（平成23年度～27年度）」を策定し、食をめぐる状況の改善をめざしてきました。

その結果、子どもの早寝早起きなどの生活リズム、中学生の肥満・やせ、むし歯のない子どもの割合などについてはやや改善傾向が見られたものの、東京都の平均と比較すると、適正体重の子どもの割合が少ない状況が続いています。

一方で、平成25年度に策定した「健康あだち21（第二次）行動計画」では、健康寿命が都平均より約2歳短い、糖尿病の受診件数・医療費ともに23区の中で常に上位に位置している実態が浮き彫りとなりました。これを受けて、区は「糖尿病対策アクションプラン」を策定し、糖尿病対策に重点を絞った取り組みを行っています。

平成27年度足立区食習慣調査の結果では、1日の推定野菜摂取量は233gであり、前年度と比べて微増しているものの、国の掲げる推奨摂取量350g以上に約120g不足しています。また、若い男性の肥満が多いことなど、食をめぐる課題は依然として未解決のままです。

さらに、平成27年度に実施した「子どもの健康・生活実態調査」の結果からは、目玉焼き程度の簡単な料理を含め、子どもへの食事を作ることが月に数日以下しかない世帯が約10%あり、家庭での食育の推進が難しい現状も見えてきました。

今後は顕在化した課題の解決に向け、子どもを中心に据えて取り組んでいきます。

#### (2) 「おいしい給食推進事業」の課題と今後の方針

「区内で転校したら、『新しい学校では給食がおいしくない』と子どもが給食を残すようになった」。保護者からこのような声をいただきました。残菜量の調査を行ったところ、同じ予算、同じ自校調理方式で提供している足立区の学校給食にもかわらず、学校によって大きな差があることが判明しました。これが足立区の「おいしい給食事業」の出発点となった平成19年9月の出来事です。

以来、様々な取り組みを行った結果、年間の残菜量は小学校で66.5%（123t）、中学校で54.6%（107t）減少し、給食の時間を楽しいと思う子どもの割合も、それぞれ97%、82%に達する成果をあげることができました。

しかしながら、事業がスタートして約10年経過した現在でも、残菜量が限りなくゼロに近い学校がある一方で、残菜量が平均を大きく上回り、高止まりしたままの学校が依然、見受けられるという二極化傾向は解消していません。

原因としては、

学校全体の取り組みに差異がみられる

献立のマナー化も散見され、新規メニューは減少傾向にある

栄養士は学校に一人であり、若手栄養士などは手本が少なく技量向上させにくい  
などが想定されます。今後はこのような課題の解決に向け、具体的かつ効果的な対策を講じ、残菜の二極化解消を図っていきます。

(3) 「おいしい給食推進事業」を統合した新たな計画「おいしい給食・食育対策編」の策定

前述のとおり、足立区では「足立区食育推進計画」や「おいしい給食推進事業」の取り組みを通じて、子どもの頃からの望ましい食習慣の確立をめざしてきました。健康寿命が国や都の平均を下回る当区にとって、すべての世代の健康増進は区の掲げる最優先施策の一つであるからです。

そこで今般、食育をさらに強力に推進するため「足立区食育推進計画」の見直しに当たり、「おいしい給食推進事業」との一本化をはかることといたしました。子どもたちにとって日々の給食はまさに食育の「生きた教材」であり、給食を通じて健康に生き抜く実践力を培うことが、食育を単なる知識の詰め込みに終わらせない有効な手法と判断したからです。

ともすれば、学校ごとにまちまちであった食育の内容を統一し、子どもたちが最低限身につけるべき内容を定めます。これにより、次代を担う子どもたちの施策に重点を置きつつ、全区民をも巻き込む計画として策定します。

また、今後は着実に目標を達成するため、成果指標の達成度を検証しながら事業を展開していきます。

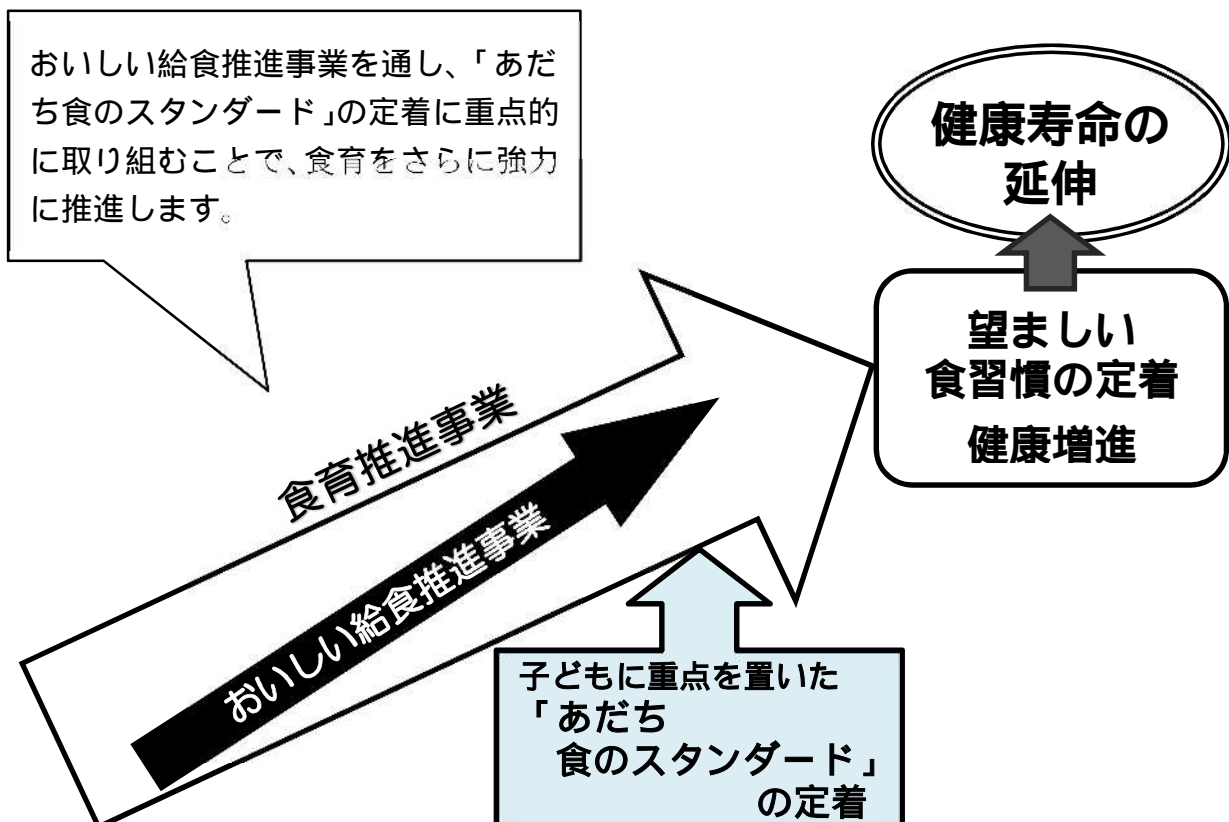
## 2 計画の基本理念

区健康課題を解決し、区民が生涯を健康で過ごすためには、望ましい食習慣を理解し、子どもの頃から野菜を含み、栄養バランスの良い規則正しい食生活を習慣化することが重要です。

そのためには、凝った料理を覚えるよりも、日常生活に役立ち、簡単であってもバランスがとれた食生活を身につけられるように食育を推進することが、一番の近道と考えました。家庭での食育に頼るだけでなく、特に、保育園、学校での給食を中心とした様々な場で、健康に生き抜くための実践力を身につけることをめざしていきます。

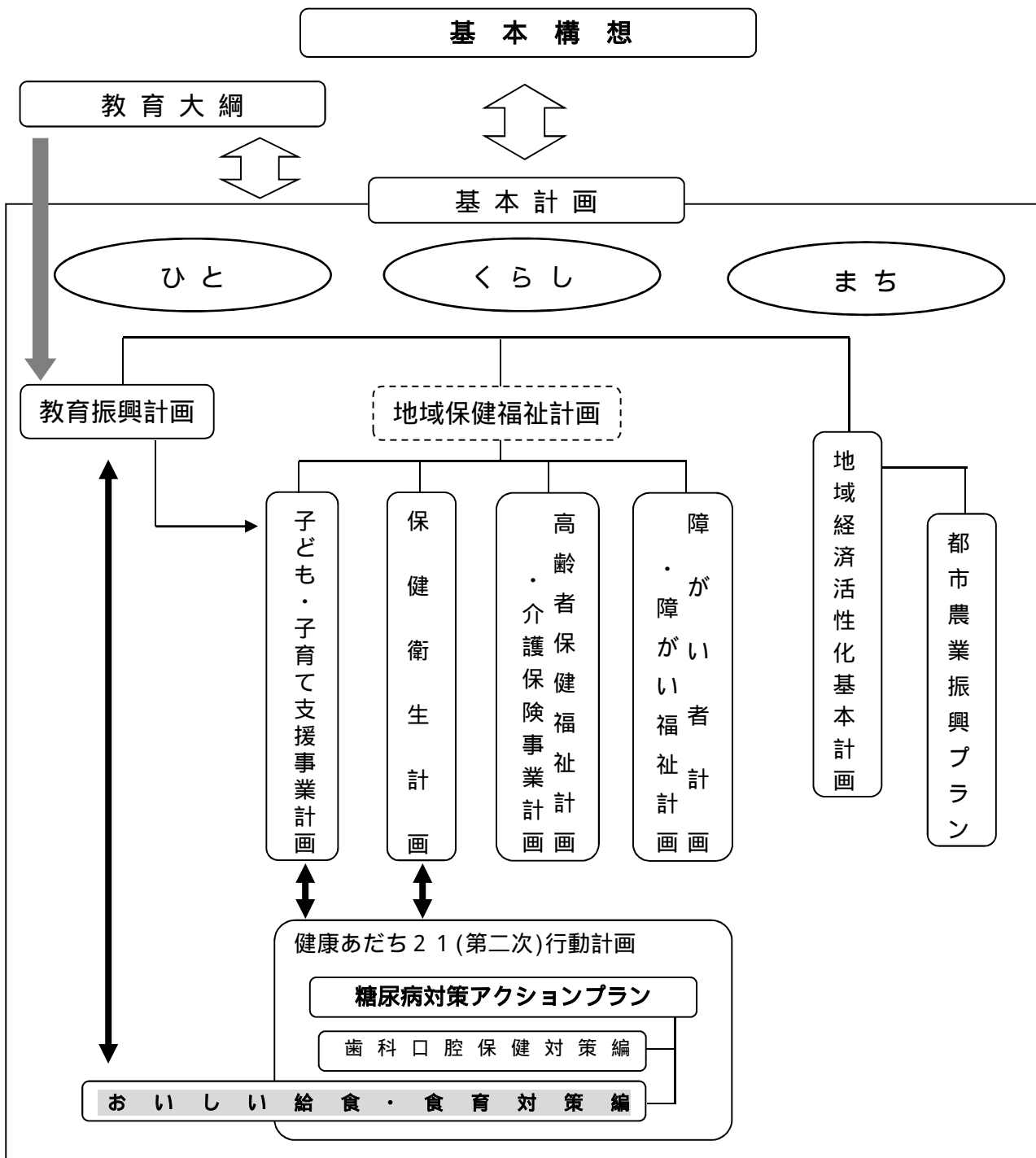
このことから、本計画では(1)1日3食野菜を食べるなど望ましい食習慣を身につける(2)栄養バランスの良い食事を選択できる(3)簡単な料理を作ることができる(ごはんが炊ける、インスタントに頼らずみそ汁が作れる、目玉焼き程度のフライパン料理ができる)以上の3点を「あだち食のスタンダード」と定め、中学校卒業時までにはすべての子どもが「あだち食のスタンダード」を身につけることを当面の目標とします。

これにより、野菜摂取が当然である地域社会の実現を通して、子どもの頃からの望ましい食習慣の定着を図り、子どものみならず、すべての世代の健康増進につなげ、ひいては区民の健康寿命の延伸をめざします。



3 本計画の位置づけ

「足立区糖尿病対策アクションプラン」および「同アクションプラン歯科口腔保健対策編」と合わせ、「健康あだち21推進事業(糖尿病対策)」の一翼を担っています。  
 なお、児童・生徒を対象とした「おいしい給食推進事業」も盛り込んでいます。



足立区地域保健福祉計画

足立区地域保健福祉の向上をめざし、施策を推進するための基本計画であり、【高齢者】【障がい者】【子育て支援】【健康づくり】の4分野ごとに策定された個別計画をもって一体と成す計画です。

4 計画の期間

この計画の期間は平成29年度～平成34年度の6年間とし、「健康あだち21(第二次)行動計画」「足立区糖尿病対策アクションプラン」に合わせて評価を行います。

## 第 2 回健康あだち 2 1 専門部会報告資料

平成 2 9 年 2 月 9 日

件 名	足立区糖尿病対策アクションプラン 小中学校での取り組みについて
所管部課	学校教育部学務課
内 容	<p>1 小中学校における野菜の取り組みについて</p> <p>(1) 給食メニューコンクールの実施について 夏休み期間中、テーマに合わせた給食メニューを小中学生に募集し、以下のとおり応募があった。このうち 40 点を受賞作品とし、上位 20 点は表彰を行った。</p> <p>募集テーマ 「あだちベジタベライフをさらに進めよう！野菜をたっぷり使ったおいしい給食～子どもたち自身で作れる簡単レシピ～」</p> <p>応募総数 5,840 点 (内訳) 小学生 3,389 点 中学生 2,451 点</p> <p>表彰式 平成 28 年 10 月 19 日(水) 本庁舎 8 階特別応接室 (作品は区ホームページに掲載。)</p> <p>(2) 「野菜の日」給食等の実施について 毎月 1 回各学校で「野菜の日」給食を提供。あわせて、クラスや学校の掲示板、給食時間の放送等で野菜摂取の啓発と食育を実施。また、各小中学校で配布している給食だよりに「野菜の日」給食の家庭用レシピを掲載。</p> <p>2 小児生活習慣病予防健診について</p> <p>(1) 学校での健診 対象者：中学 2 年生および前年度要医療者、要経過観察者 実施日：平成 28 年 10 月 11 日～10 月 21 日に各学校で実施 検査内容：血液検査、血圧測定、肥満度測定</p> <p>&lt;血液検査内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧血(赤血球数、血色素量、赤血球容積比)</li> <li>・血清脂質(総コレステロール、HDL - コレステロール、LDL - コレステロール)</li> </ul>

	<p>・ H b A 1 c 検査（新規）</p> <p>（ 2 ）事後講演会等</p> <p>対象者：健診を受診した生徒および保護者</p> <p>実施日時：平成 2 8 年 1 2 月 1 7 日（土） 1 3 時～ 1 6 時 2 0 分</p> <p>実施場所：足立区医師会館で実施</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 小児生活習慣病予防講演会<ul style="list-style-type: none"><li>「肥満・高コレステロール血症・糖尿病について」</li><li>講師：東京女子医科大学東医療センター小児科 教授 杉原茂孝 医師</li></ul></li><li>・ 医師及び栄養士による個別相談（希望者を対象に実施）</li></ul>
--	--

地域保健福祉推進協議会

## 第 2 回健康あだち 2 1 専門部会報告資料

平成 2 9 年 2 月 9 日

件 名	足立区糖尿病対策アクションプラン 保育園での取り組みについて
所管部課	子ども家庭部子ども施設運営課
内 容	<p>1 「食育・野菜の日」の実施 野菜への興味を深め、野菜を食べる機会を増やすことを目的として、旬野菜のテーマを決め、毎月 1 9 日にその食材を給食で使用する。また、園児による野菜の収穫体験や調理体験を通して、野菜好きな子を育てる。さらに、保護者へのレシピ・啓発メモの配布等で野菜摂取を呼びかけ、園児と保護者と両方へ野菜摂取のアプローチをし、糖尿病予防につなげる。</p> <p>2 野菜の栽培から収穫、調理体験の充実 各園様々な野菜を栽培し、収穫体験を行っている。特に 2 8 年度は、小松菜の種を区立 3 8 園と私立 7 0 園に配布し、区内の小松菜農家の方に協力を呼びかけ、4 ヲ所で栽培から収穫までの講習会を開催した。食育・野菜の日（6 月 2 0 日）には、5 歳児を中心に収穫した小松菜を調理し、みそ汁にして食べる取り組みを実施。 事業実施後、3 2 %の園児が家庭でもみそ汁調理をしたと回答（資料 9 - 1） 区立園は、2 6 年度からはホットプレート、2 7 年度からはガラス鍋、2 8 年度からは包丁・まな板を活用した調理体験を推進している。特に、野菜の美味しさを味わい、野菜料理を自分で作ることができるという体験を増やし、野菜に関心がもてるようにしている。 食べられる野菜の種類が増えたと 8 6 %の保護者が回答した。（H27 ベジタブルアンケート）</p> <p>3 保護者の給食体験 給食をきっかけとして保護者の野菜への関心を高め、家庭での野菜摂取につなげられるよう、2 5 年 8 月より区立園で保護者の給食体験を実施した。2 6 ・ 2 7 年度共に約 3 0 0 名の参加があった。 2 8 年（4 ~ 1 0 月）は、現在 2 3 2 名の参加。</p>



#### 4 ひと口目は野菜から

25年9月から3～5歳児を対象に「ひと口目は野菜から」の声かけを行うことにより、野菜摂取の意識付け及び習慣化を図ることで糖尿病予防につなげることを目的として実施している。私立園にも推進を呼びかけている。

26・27年度に区立園で実施したベジタベアンケート結果では、家庭において野菜から食べている園児(3～5歳児)の割合は、平均31%から36%に上昇した。(資料9-2図1)また、食べられる野菜の種類が増えている園児は86%で1ポイント上昇した。(資料9-2図2)

27年度に7区立園で実施した食習慣調査では、「ひと口目は野菜から」毎回食べている園児は、野菜の摂取量が高く、過体重の割合が低い結果であった。(資料9-2図3・4)

私立保育園においては、70園中21園と3割の園が「ひと口目は野菜から」食べる取り組みを実施していることを確認した。(資料9-3)

28年度も引き続きアンケートを実施し、取り組みの効果を確認していく。(28年度は、ベジタベアンケートを公設民営保育園15園も実施中。)

平成28年度 食育月間アンケート集計結果(区立園)

資料 9 - 1

保育園	栽培指導参加	よく育った	虫付、食べられた	虫食、食べられなかった	育たなかった	その他	調理体験5歳	調理体験4歳	みそ汁以外に調理したもの	5歳児人数	また栽培したい	%	また調理したい	%	家でみそ汁等調理	%	栽培したい野菜				その他	
																	薬物	枝豆	とうもろこし	アスパラ		ブロッコリー
1									小松菜ソテー	19	18	94.74	19	100	6	31.6						
2									醤油和え	30	27	90	27	90	8	26.7						虫が付にくい野菜
3										18	18	100	16	89	7	38.9						
4									汁・みそ汁	20	11	55	16	80	9	45						
5									おひたし	14	10	71.43	12	86	6	42.9						芽キャベツ 落花生
6										30	30	100	30	100	18	60						簡単な根菜 (人参など)
7									焼きそば	20	20	100	20	100	12	60						キャベツ、人参、玉葱 小松菜、白菜、ねぎ
8										18	18	100	18	100	6	33.3						苺、米、ブルーベリー
9										26	26	100	26	100	3	11.5						オクラ
10										17	12	70.59	14	82	3	17.6						オクラ
11										25	23	92	25	100	8	32						二十日大根
12									おひたし	26	26	100	26	100	6	23.1						小松菜
13										20	7	35	18	90	4	20						
14										20	20	100	20	100	14	70						人参、じゃが芋、玉葱 キャベツ、南瓜
15									おひたし (3-5歳)	10	10	100	10	100	4	40						小松菜 二十日大根
16									小松菜ソテー	19	19	100	19	100	4	21.1						
17										25	25	100	25	100	12	48						人参、じゃが芋、苺
18									根菜みそ汁	28	27	96.43	28	100	14	50						葉物野菜、オクラ
19										30	30	100	30	100	18	60						小松菜 苦手な野菜
20										20	14	70	20	100	6	30						
21										27	14	51.85	24	89	5	18.5						オクラ、苺、じゃが芋 人参、ブロッコリー
22										19	19	100	19	100	3	15.8						じゃが芋 さつまいもの手類
23									茹でてソテー	28	27	96.43	28	100	5	17.9						小松菜
24										20	20	100	20	100	6	30						小松菜、レタス、人参
25									焼きおにぎり	16	16	100	16	100	9	56.3						スナップエンドウ、いんげん きぬさや
26										31	31	100	31	100	12	38.7						小松菜
27									和オムレツ	21	21	100	21	100	5	23.8						害虫の少ない冬野菜 レタス、玉ねぎ、人参
28										16	13	81.25	16	100	4	25						オクラ、枝豆、大根
29									和オムレツ・みそ汁	19	15	78.95	17	89	11	57.9						オクラ
30										24	24	100	20	83	10	41.7						小松菜
31										23	13	56.52	13	57	4	17.4						
32										20	20	100	20	100	5	25						人参、ほうれん草
33									小松菜飯	25	25	100	25	100	8	32						小松菜
34									きんぴらごぼう	37	37	100	37	100	3	8.11						根菜類
35																						
36										48	30	62.5	0	0	0	0						葉物以外の野菜
37																						
38										27	27	100	27	100	6	22.2						じゃがいも
合計(園数)	25	12	16	8	0	1	27	1	0													
%	61%	29%	39%	20%	0%	2%	66%	2%	0%			89%	93%	32%								

図1：平成26・27年度 ベジタベアンケート結果  
家庭において野菜から食べている園児（3～5歳児）

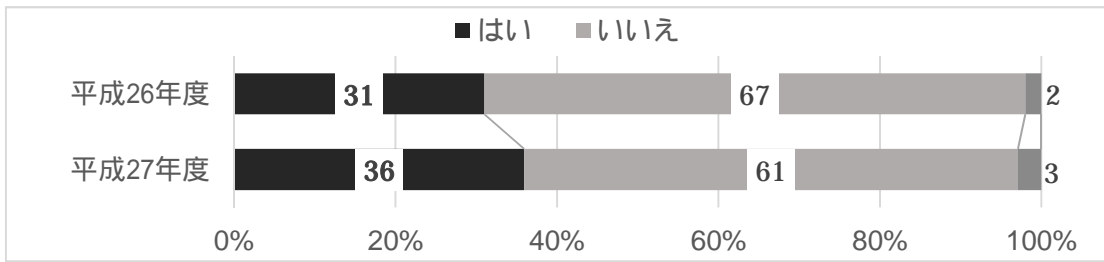


図2：平成27年度 ベジタベアンケート結果  
食べられる野菜の種類が増えている園児（3～5歳児）

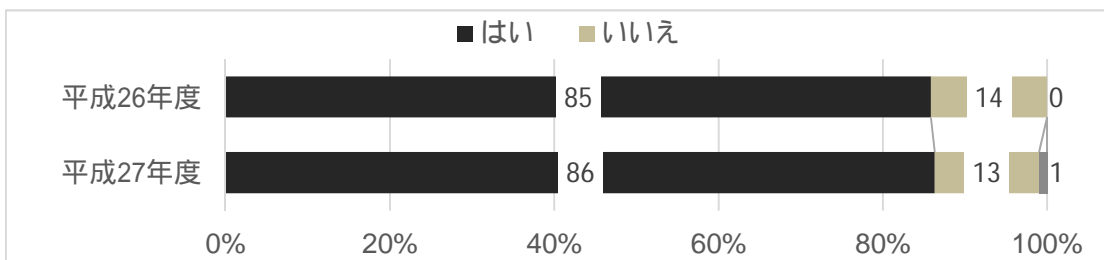
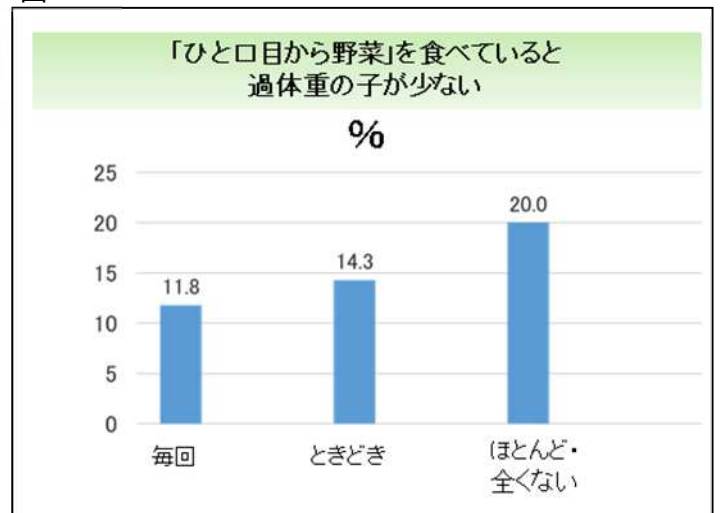


図3・図4：平成27年度 食習慣調査結果 区立園7園（4歳児）

図3



図4







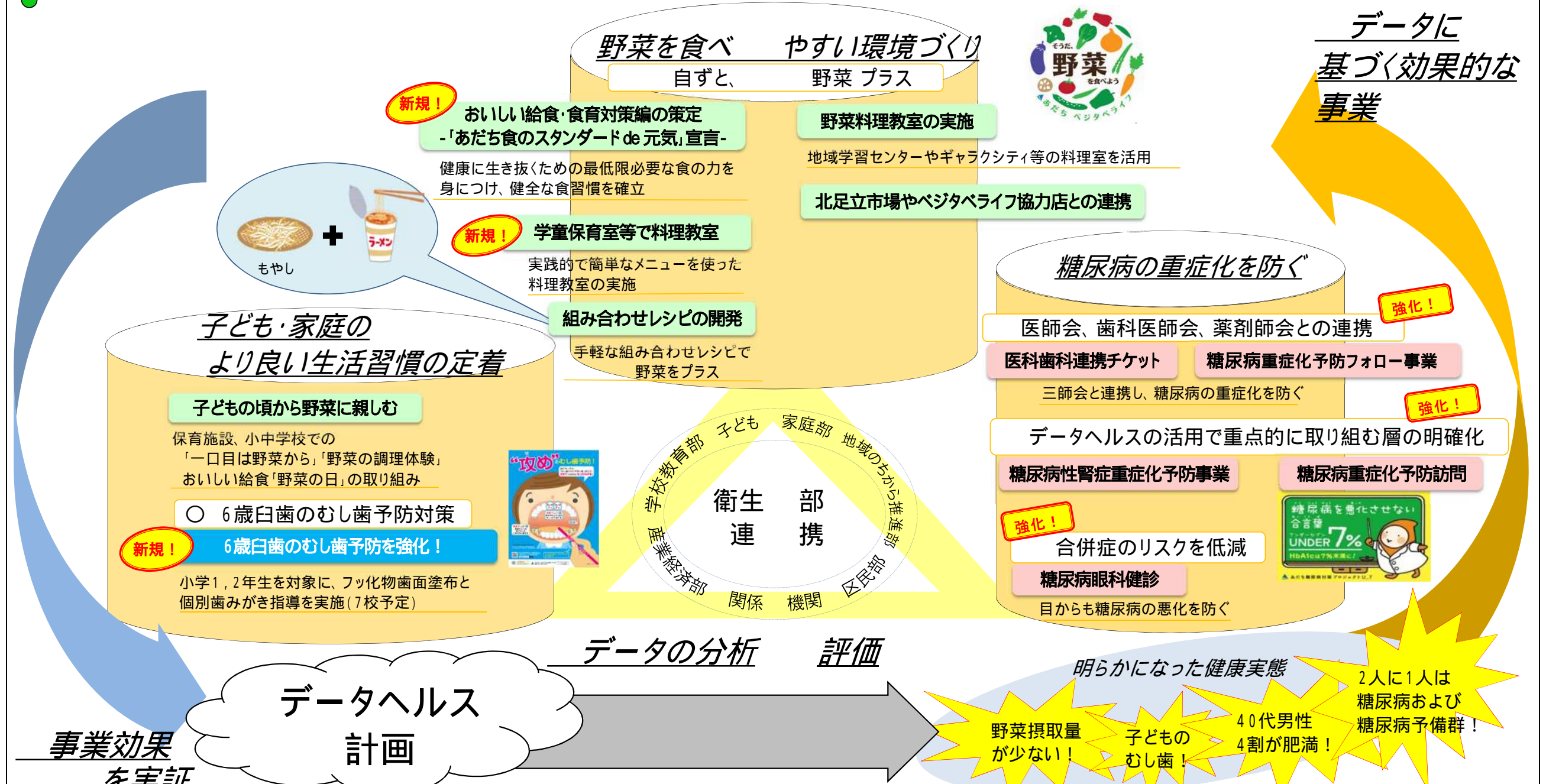


健康寿命を延伸！～住んでいるだけで、自ずと健康に～

事業名: 糖尿病対策事業 / データヘルス推進事業

関連頁: 12, 13, 15, 22～23, 36, 38, 46, 64, 73

# 住んでいるだけで、自ずと健康に！



データヘルス計画は、国民健康保険や各所管が保有する健康・医療情報を活用して、区民の健康実態の分析、課題の抽出を行い、健康寿命の延伸と医療費の適正化に効果的な保健事業を実施するための計画です。

担当課係	こころからの健康づくり課 健康づくり係 衛生管理課 健診保健サービス係(データヘルス推進課 健診事業係) 国民健康保険課 ジェネリック・保健事業推進担当 (データヘルス推進課 データヘルス推進係) 住区推進課 指導相談係、学童保育係 地域文化課 学習事業係 学務課 おいしい給食担当 子ども施設運営課 区立保育園係(子ども施設運営課 区立保育施設係) 青少年課 ギャラクシティ支援担当(地域文化課 ギャラクシティ支援担当)	問合せ先(直通)	3880-5433 3880-5121 3880-5018 (~29年3月31日) 3880-5601 (29年4月1日~) 3880-5868 3880-5467 3880-5427 3880-5888 3880-5273
------	---	----------	--

地域保健福祉推進協議会

## 第2回健康あだち21専門部会情報連絡資料

平成29年2月9日

件名	がん対策基本法の一部を改正する法律の公布について
所管部課	衛生部衛生管理課
内容	厚生労働省より、がん対策基本法の一部を改正する法律の公布について、(平成28年12月16日付健発1216第16号)情報提供があったため、報告する。



# がん対策基本法の一部を改正する法律 概要

## 1. 目的規定の改正(第1条)

目的規定に「がん対策において、がん患者(がん患者であった者を含む。)がその状況に応じて必要な支援を総合的に受けられるようにすることが課題となっていること」を追加

## 2. 基本理念の追加(第2条)

- ① がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、がん患者が、その置かれている状況に応じ、適切ながん医療のみならず、福祉的支援、教育的支援その他の必要な支援を受けることができるようにするとともに、がん患者に関する国民の理解が深められ、がん患者が円滑な社会生活を営むことができる社会環境の整備が図られること
- ② それぞれのがんの特性に配慮したものとなるようにすること
- ③ 保健、福祉、雇用、教育その他の関連施策との有機的な連携に配慮しつつ、総合的に実施されること
- ④ 国、地方公共団体、医療保険者、医師、事業主、学校、がん対策に係る活動を行う民間の団体その他の関係者の相互の密接な連携の下に実施されること
- ⑤ がん患者の個人情報の保護について適正な配慮がなされるようにすること

## 3. 医療保険者の責務・国民の責務の改正(第5条、第6条)

- ① 医療保険者は、がん検診の結果に基づく必要な対応に関する普及啓発等の施策に協力するよう努力
- ② 国民は、がんの原因となるおそれのある感染症に関する正しい知識を持ち、がん患者に関する理解を深めるよう努力

## 4. 事業主の責務の新設(第8条)

がん患者の雇用の継続等に配慮するとともに、がん対策に協力するよう努力

## 5. がん対策基本計画等の見直し期間の改正(第10条、第12条)

がん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画の見直し期間を「少なくとも6年ごと」(現行は5年)に改正

## 6. 基本的施策の拡充

(1) がんの原因となるおそれのある感染症並びに性別、年齢等に係る特定のがん及びその予防等に関する啓発等(第13条)

(2) がんの早期発見の推進(第14条)

- ① がん検診によってがん罹患している疑いがあり、又は罹患していると判定された者が必要かつ適切な診療を受けることを促進するため、必要な環境の整備その他の必要な施策を明記
- ② がん検診の実態の把握のために必要な措置を講ずるよう努力

(3) 緩和ケアのうち医療として提供されるものに携わる専門性を有する医療従事者の育成(第15条)

(4) がん患者の療養生活の質の維持向上に係る規定の改正(第17条)

- ① がん患者の状況に応じて緩和ケアが診断時から適切に提供されるようにすること
- ② がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること
- ③ がん患者の家族の生活の質の維持向上のために必要な施策を明記

(5) がん登録等の取組の推進(第18条)

(6) 研究の推進等に係る規定の改正(第19条)

- ① がんの治療に伴う副作用、合併症及び後遺症の予防及び軽減に関する方法の開発その他のがん患者の療養生活の質の維持向上に資する事項を追加
- ② 罹患している者の少ないがん及び治療が特に困難であるがんに係る研究の促進についての必要な配慮を追加
- ③ がん医療に係る有効な治療方法の開発に係る臨床研究等が円滑に行われる環境の整備に必要な施策を明記

(7) がん患者の雇用の継続等(第20条)

(8) がん患者における学習と治療との両立(第21条)

(9) 民間団体の活動に対する支援(第22条)

(10) がんに関する教育の推進(第23条)

## 7. 施行期日(附則)

公布の日

地域保健福祉推進協議会

## 第2回健康あだち21専門部会情報連絡資料

平成29年2月9日

件名	国の受動喫煙防止対策強化の「たたき台」の公表について
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課
内容	<p>厚生労働省は、2020年の東京五輪・パラリンピックに向け受動喫煙の対策を強化するため施設管理者や喫煙者を罰則付きで規制する法整備の「たたき台」を示した。これを今国会に提出し、検討中である。</p>

## 受動喫煙防止対策の強化について（たたき台）

平成 28 年 10 月

厚生労働省

## 1. 受動喫煙防止対策を強化する必要性

- 受動喫煙（他人のたばこの煙にさらされること）については、健康に悪影響を与えることが科学的に明らかにされており、例えば、肺がん、乳幼児突然死症候群（SIDS）、虚血性心疾患等のリスクを高めるとされている。
- このため、我が国では、受動喫煙による健康への悪影響をなくし、国民・労働者の健康の増進を図る観点から、健康増進法及び労働安全衛生法により、多数の者が利用する施設の管理者や事業者は受動喫煙を防止するための措置を講じるよう努めることとされている（努力義務）。また、国際的に見ても、我が国は「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」の締結国として、国民の健康を保護するために受動喫煙防止対策を推進することが求められている。
- このような背景の下、施設の管理者や事業者が受動喫煙防止対策に取り組んできたことにより、施設や職場における受動喫煙の状況は改善傾向にあるが、依然として3割を超える非喫煙者が過去1ヶ月間に飲食店や職場で受動喫煙に遭遇し、また、行政機関や医療機関において受動喫煙に遭遇する者も一定程度存在する<sup>(1)</sup>等、我が国における受動喫煙防止対策は十分とは言えない状況にある。
- 加えて、我が国は2020年に東京オリンピック・パラリンピック、2019年にラグビーワールドカップの開催を控えている。これらの大会は、「スポーツ」を通じて健康増進に取り組む契機となるものである。
- 世界保健機関（WHO）と国際オリンピック委員会（IOC）は、「た

---

(1) 厚生労働省「国民健康・栄養調査」（平成 25 年）

「ばこのないオリンピック」を共同で推進することとしており、日本を除く近年の競技大会開催地及び開催予定地は、公共の施設や職場について、罰則を伴う受動喫煙防止対策を行っている。

(例)

- ・ ロンドン …建物内禁煙。
- ・ リオデジャネイロ …敷地内禁煙。
- ・ 平昌（韓国）…原則建物内禁煙。ただし、飲食店等では、喫煙室の設置が認められている。

- こうしたことを踏まえ、我が国においても、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、その前年に開催されるラグビーワールドカップに向けて、国民の更なる健康増進のために早急に受動喫煙防止対策の強化を図り、その実効性を高める必要がある。

## 2. 受動喫煙防止対策の具体策

### (1) 基本的な方向性

- 国民の更なる健康の増進の観点に加え、東京オリンピック・パラリンピック等を契機に、日本の受動喫煙防止対策をオリンピック・パラリンピック開催国と同等の水準とするため、従来の努力義務よりも実効性の高い制度とする。
  
- 受動喫煙防止のための方法としては、イギリスのように建物内を禁煙とすることが極めて有効であると考えられているため、我が国としては、イギリス型のスモークフリー社会を目指しつつ、今回、日本の現状を踏まえながらも、受動喫煙防止対策の歴史的第一歩を踏み出し、日本のスモークフリー元年を確実に実現するため、イギリスと韓国の混合型の制度を導入する。

### (2) 新たに導入する制度の具体的な考え方

- 新たに導入する制度については、施設の用途、主たる利用者、利用者による施設選択の可否等を勘案して、以下の①～③のとおり分類する。
  - ① 多数の者が利用し、かつ、他施設の利用を選択することが容易でないものは、「建物内禁煙」とする。(官公庁や社会福祉施設等)
  - ② 上記①の施設のうち、特に未成年者や患者等が主に利用する施設は、受動喫煙による健康影響を防ぐ必要性が高いため、より厳しい「敷地内禁煙」とする。(学校や医療機関等)
  - ③ 利用者側にある程度他の施設を選択する機会があるものや、娯楽施設のように嗜好性が強いものは、「原則建物内禁煙」とした上で、煙が外部に流出することを防ぐための措置を講じた「喫煙室」の設置を可能とする。(飲食店等のサービス業等)
  
- 上記の考え方を踏まえた主な施設に係る受動喫煙防止対策の内容については、次頁のとおり。

・前頁の考え方を踏まえた主な施設に係る受動喫煙防止対策の内容

官公庁	①建物内禁煙
社会福祉施設	①建物内禁煙
運動施設（スタジアム等）	①建物内禁煙
医療機関	②敷地内禁煙
小学校、中学校、高校	②敷地内禁煙
大学	①建物内禁煙
サービス業 飲食店、ホテル・旅館（ロビーほか共用部分）等のサービス業施設	③原則建物内禁煙（喫煙室設置可）
事務所（職場）	③原則建物内禁煙（喫煙室設置可）
ビル等の共用部分	③原則建物内禁煙（喫煙室設置可）
駅、空港ビル、船着場、バスターミナル	③原則建物内禁煙（喫煙室設置可）
バス、タクシー	①乗物内禁煙
鉄道、船舶	③原則乗物内禁煙（喫煙室設置可）

- なお、個人の住宅や、多数の者が利用する施設内であってもその用途が個人の住宅と同様と考えられる場所（ホテルの客室等）については、新たな制度の対象外とする。

(3) 受動喫煙防止対策の実効性を担保するための措置

○ 受動喫煙防止対策の実効性を担保する観点から、以下の義務、努力義務を課すこととする。

① 施設利用者については、喫煙禁止場所で喫煙をしない義務

② 施設の管理者については、

- ・ 喫煙禁止場所の範囲や喫煙室の位置等を掲示する義務
- ・ 喫煙禁止場所において喫煙器具等を設置しない義務
- ・ 喫煙室の設備・構造を受動喫煙防止対策のための技術的基準に適合させる義務
  - ※喫煙室に係る技術的基準については引き続き検討する。
- ・ 喫煙禁止場所において喫煙者を発見した場合に喫煙を止めることを喫煙者に求める努力義務
- ・ 喫煙室への未成年の立入りを防止する努力義務

○ 義務違反者に対しては、勧告、命令等を行い、それでもなお義務に違反する場合には罰則を適用することとする。その詳細については、引き続き検討する。

**3. 今後の立案作業**

○ 我が国における受動喫煙防止対策をオリンピック・パラリンピック開催国と同等の水準とすべく、必要な法律案を国会に提出することを目指す。その際には、関係者の意見を踏まえながら調整を進めることとし、また、施設の管理者等における十分な準備期間を確保するよう、できるだけ早期に作業を進めていく。

# 受動喫煙防止対策の強化について（たたき台）

資料1（参考）

## 基本的な方向性

- 健康増進の観点に加え、2020年の東京オリンピック・パラリンピック等を契機に、日本の受動喫煙防止対策をオリンピック開催国と同等の水準とするため、従来の努力義務よりも実効性の高い制度とする。
- イギリス型のスモークフリー社会を目指しつつ、今回、日本の現状を踏まえながらも受動喫煙防止対策の歴史的第一歩を踏み出し、日本の「スモークフリー元年」を確実に実現するため、イギリスと韓国の混合型の制度を導入する。

## 新たに導入する制度の考え方

※詳細は次頁

- (1) 多数の者が利用し、かつ、他施設の利用を選択することが容易でないものは、建物内禁煙とする。（官公庁、社会福祉施設等）
- (2) (1)の施設のうち、特に未成年者や患者等が主に利用する施設は、受動喫煙による健康影響を防ぐ必要性が高いため、より厳しい「敷地内禁煙」とする。（学校、医療機関等）
- (3) 利用者側にある程度他の施設を選択する機会があるものや、娯楽施設のように嗜好性が強いものは、原則建物内禁煙とした上で、喫煙室の設置を可能とする。（飲食店等のサービス業等）

## その他

- (1) 施設の管理者に対し、「建物内禁煙」「喫煙室を設置」等の掲示を義務付ける。
- (2) 実効性の担保措置として、施設の管理者や喫煙者本人に対し、罰則を適用する（詳細検討中）



# 受動喫煙防止対策の強化の内容（たたき台）

施設の種類	強化(案)	イギリス	韓国
官公庁	建物内禁煙	B	C
社会福祉施設	建物内禁煙	B	C
運動施設(スタジアム等)	建物内禁煙	B	C
医療機関	敷地内禁煙	B	B
小学校、中学校、高校	敷地内禁煙	B	A
大学	建物内禁煙	B	C
サービス業 飲食店、ホテル・旅館(ロビーほか共用部分)等のサービス業施設	原則建物内禁煙（喫煙室設置可）	B	C
事務所(職場)	原則建物内禁煙（喫煙室設置可）	B	C
ビル等の共用部分	原則建物内禁煙（喫煙室設置可）	B	C
駅、空港ビル、船着場、バスターミナル	原則建物内禁煙（喫煙室設置可）	B	C
バス、タクシー	全面禁煙	B	B
鉄道、船舶	原則禁煙（喫煙室設置可）	B	C

※ A…敷地内禁煙、B…建物内禁煙、C…建物内禁煙(喫煙室設置可)